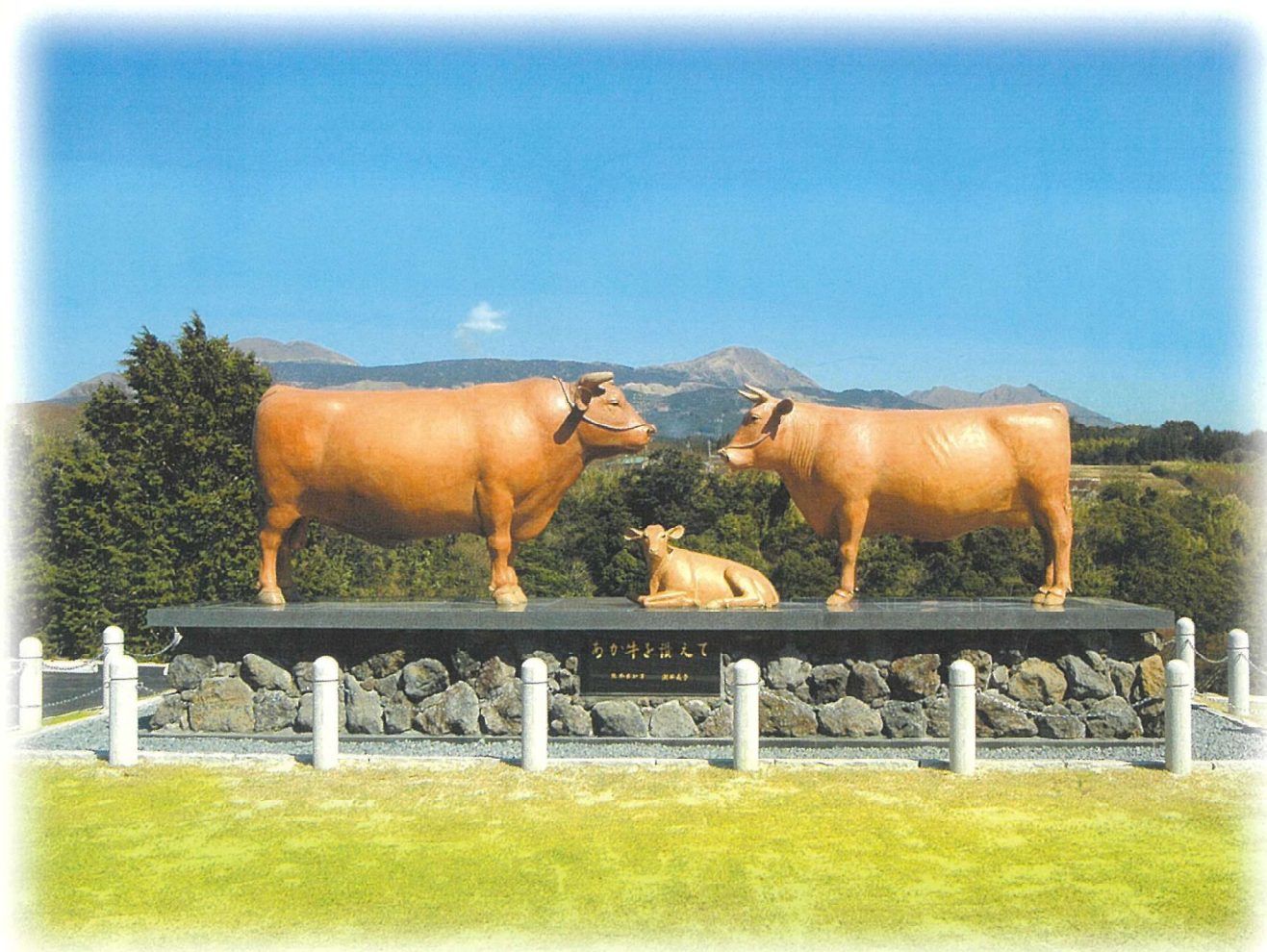


あか牛ブロンズ像建立記念誌

# あか牛を讃えて



あか牛ブロンズ像建立委員会

# も く じ

あか牛ブロンズ像建立について	・・・・・・・・・・	P 1
会長挨拶		
あか牛ブロンズ像建立委員会 会長 府内 哲熊	・・・・・・・・・・	P 2
祝辞		
熊本県知事	潮谷 義子	・・・・・・・・・・ P 3
東京あか牛応援団 会長	菱沼 毅	・・・・・・・・・・ P 4
(社) 家畜改良事業団 理事長	板井 康明	・・・・・・・・・・ P 5
(社) 日本草地畜産種子協会 会長	浅野 九郎治	・・・・・・・・・・ P 6
熊本県町村会 会長	富永 清次	・・・・・・・・・・ P 7
阿蘇市町村会 会長	宮崎 暢俊	・・・・・・・・・・ P 8
熊本県農業協同組合中央会 会長	園田 俊宏	・・・・・・・・・・ P 9
(社) 日本あか牛登録協会 会長	續 省三	・・・・・・・・・・ P 10
あか牛の歴史及び特質	・・・・・・・・・・	P 11
ブロンズ像になった光重E T号の紹介	・・・・・・・・・・	P 13
あか牛に寄せて		
北海道あか牛振興協議会会長	小原 秀樹	・・・・・・・・・・ P 17
元静岡県経済連事業所長	鈴木 一則	・・・・・・・・・・ P 18
元鹿本畜産農業協同組合長	城 光宣	・・・・・・・・・・ P 19
宇城市小川町 (繁殖農家)	辰井千代勝	・・・・・・・・・・ P 20
ご協賛芳名簿	・・・・・・・・・・	P 21
委員会構成メンバー	・・・・・・・・・・	P 32
あとがき	・・・・・・・・・・	P 33

## あか牛ブロンズ像建立について

広々とした草原で、草を食むあか牛の群れが、とてもまぶしく金色に輝いている風景は、何物にも代え難い私たちの財産ではないでしょうか。

あか牛は、体質強健で粗食に耐える農耕用の牛として、県内各地で飼養されていた「赤牛」や「肥後牛」名で知られた淡褐色の在来牛を祖先としています。元々「体格は小さく、尻、腿の発達が悪いが、肉質は非常に良い」と言われていましたが、明治の後半から、シンメンタール種を用いた改良が進められ、昭和19年に国が和牛を定める時に、「褐毛和種」と定められてから「あか牛」が品種として確立しました。

また一方で、世界一の「カルデラ」を有する阿蘇は、観光価値が非常に高く、「千年草原阿蘇」の景観は「あか牛」によって脈々と守り続けられてきたと言っても過言ではありません。その風景描写は訪れた観光客に心の癒しをもたらしてくれます。

さらに、阿蘇の山々は、熊本県、福岡県や大分県の水の源流としての役割をも持ち、その下流に生活する人々の暮らしを育んでいるのです。

しかしながら、国際的な貿易の自由化、飼養農家の高齢化、後継者不足等により「あか牛」の減少傾向が続いています。

性質温順で飼いやすく、早熟で肉の生産効率が良く、粗飼料の利用性に富む「あか牛」の改良の歴史の中で、多くの優秀な種雄牛が輩出されてきましたが、その中で最も貢献したのが昭和63年生まれの「光重ET」です。体型のすばらしさは勿論のこと、肉質面でも高い能力を発揮し、多くの後継牛が活躍していることは周知のとおりです。

今日の現状を打破し、さらなる「あか牛」の振興を図るため「光重ET」をその主人公としたファミリー像を建立したいと考え、本事業に取り組みました。

ここで、熊本県民、さらには「あか牛」に思いを寄せる数多くの人の気持ちを一つにして戴くために、熊本県が誇れる熊本特産の「あか牛」のブロンズ像を建立するという趣旨を十分にご理解いただき、多大なるご協力・ご支援を賜りましたことに衷心よりお礼申し上げます。



# 会長挨拶

あか牛ブロンズ像建立委員会

会長 府内 哲熊

今ここに、あか牛の尚一層の発展と、またあか牛の再興を期したいとの思いから、「あか牛ブロンズ像」を建立するという一大事業が、熊本県、県内関係市町村、農協連合会、生産者はじめ県内外の数多くのあか牛を愛する人たちのご支援及びご協力を戴き、ここに完成出来ましたことに対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、あか牛をめぐる現状は、皆様ご承知の通りであります。先の牛肉輸入自由化後、飼養頭数は大幅に減少し、今では、平成元年時に比して約三分の一にまで減少してきています。

さらにBSEや口蹄疫などの発生、畜産農家の高齢化及び後継者不足なども、今後の飼養頭数に不安を抱かせる要因となっています。

また、最近の子牛市場価格において、黒牛との価格差が大きいこともその要因になっているものと思われます。

しかし、今まで取り組んできた「あか牛ルネサンス運動」、「熊本型放牧事業」、知事にも参加していただいた「あか牛応援団」活動、また熊本県が提唱された「地産地消」運動など関係者が一団となった取組みを進めてきたことの効果として、あか牛の飼養頭数にやや増加の兆しが見えてきました。

一方では、消費者のニーズが、多様化する中で、特に「安全・安心」に対する求め方が特段に厳しくなっています。

ここで、あか牛は粗飼料の利用性が優れていることと、強健であること等から、阿蘇の広大な草原での放牧、または平坦地での水田放牧或いは遊休地での放牧等、既存資源の有効活用で低コスト生産可能な特性を持ち、加えて、粗飼料主体で肥育をしたあか牛の肉には「うまみ成分」が多く含まれるという研究成果から、今後、消費者が求める真の和牛であり、それを次世代和牛といたいと思います。

このことを踏まえて、これまでも増して低コスト生産を推奨し、実収益を確保できる方策を基調に、阿蘇の草原活性化とあか牛の増産を経営の柱として進めてまいり所存です。

また、あか牛の販路拡張として、東京で昭和60年代から「スエヒロ」を中心に進めてきましたが、昨年末にシャネル直営レストラン「ページュ東京」で、あか牛をメニューにした料理が提供され、あか牛の銘柄確立に向け弾みがつくものと考えています。

あか牛ブロンズ像が、国内すべての地域の数多くの方々のご協力のもとに建立でき、今後のあか牛の振興に携わるものとして身の引き締まる思いでございます。

この像が、あか牛を生産される方々の「拠り所」として、またあか牛を振興する者の「力の泉」として、大変大きな役割を担うものになると確信をいたします。

終わりにあたりまして、このあか牛像の題字を潮谷県知事様、この像の制作を富山県高岡市の竹中製作所と日展（委嘱）の田畑功様、敷地を南阿蘇村の本郷征武様にご協力戴きました。ご協力戴きました皆様方に心より感謝を申し上げ挨拶といたします。



## 「あか牛を讃えて」

熊本県知事 潮谷 義子

「あか牛」のブロンズ像建立を記念して本誌が発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

「<sup>あかげ</sup>褐毛和種」は本県在来の牛をもとに関係の皆様が長年に亘って地道に改良を重ねてこられたもので、今日、肉専用種として確固たる地位を築いております。

今回建立されましたブロンズ像は、皆様が心血を注いで造り出された「光重ET」をモデルにしたものと聞いており、関係の方々のこの牛にかける強い思いを改めて感じたところでございます。

皆様もお感じのことと思いますが、阿蘇の草原には、放牧されゆったりと草をはむあか牛の姿が大変よく似合います。この姿が、阿蘇千年の草地を守り、景観を形づくるひとつの要素にもなって、この地を訪れる多くの観光客の心を和ませているところです。このようにあか牛は、本県畜産業における資源としてばかりでなく、本県の観光を支える重要な資源でもあると思っております。

しかし、本県が守り育ててきたあか牛は、近年の牛肉をめぐる国際化の進展、他産地との競争などの影響を受け、その数を減らしております。このため、本県においては、「あか牛ルネサンス運動」、「あか牛応援団」、熊本型放牧の推進等に取り組んでいるところで

す。このような中、「あか牛再生をめざす力強いシンボル」となるあか牛ブロンズ像の建立によって、関係の皆様方の結束がさらに強まりましたことは、大変意義深いものと考えております。

また、県民の皆様をはじめ阿蘇を訪れる多くの方々が、このブロンズ像をとおして、あか牛はもとより阿蘇の雄大な草原の維持に関心を持っていただければと期待しています。

最後に、このブロンズ像建立に向けた委員会の皆様の御努力に改めて敬意を表し、本県畜産がこのブロンズ像のようにしっかりと大地を踏みしめ、力強く発展してまいりますことをご祈念申し上げて、私のお祝いの言葉といたします。



## あか牛の復活を祈る

東京あか牛応援団会長

元九州農政局長 菱沼 毅

阿蘇といえば、何といても「あか牛」と「野焼き」です。この鮮烈な赤と緑のイメージは、この地を一度でも訪れた人々の心を捉えて離しません。この広大な草原や清流、四季折々みごとな変化を見せる自然はこれからもあらゆる手立てを講じて守っていくべき環境の一つです。

古来、この環境を維持し、地域の農民の生活向上に大きな役割を果たしてきたのは、紛れもなく「あか牛」です。ところが何時の頃からでしょうか、阿蘇から、この「あか牛」が少しずつ姿を消していきました。

現役時代たびたび訪れた熊本、そこで見たり聞いたりした阿蘇、九州農政局勤務時、週末のたびに訪れた阿蘇。しかし、いずれの時の阿蘇行脚でも「あか牛」の数が増えた事はなく、減った事だけが実感として残りました。ヨーロッパに例をひくまでも無く、阿蘇の観光には「あか牛」が一番、これからの安心・安全な牛肉には有機的イメージと香りのする「あか牛」が最適、と主張するもの一人として残念に思っていました。

出張する折に訪れたヨーロッパアルプスに近いスイスやフランスの一部の地方では、緑とマッチした牛や傾斜を利用した放牧風景が、観光資源そのものになっています。また、彼の地の農民はその自然環境を誇りにし、且つ、環境や景観の一部をなしている牛が収入の大きな部分を占めています。

そこで、このような状況を踏まえ間接的「あか牛」関係者の一人として、現在の「あか牛」の状況をボトムに、その復興・復活を図るべきではないかと、常日頃県関係の皆様方とも議論をしてきたところです。

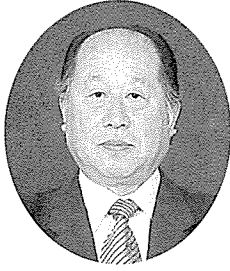
そんな折、県畜連の府内会長から「あか牛」復活の切っ掛けを作りたい、とのお話がありました。それが、この「あか牛」ブロンズ像建立構想でした。最初は一頭というお話でしたが、いつのまにか親子ファミリーでないと寂しく、可哀想ではないかと話が進み、最終的に三頭となり、今日こうして旧長陽村の国道沿いに立派なブロンズ像が建立されました。当初、府内会長からこの構想を伺った時、頭に浮かんだ事は、銅像の建立イコール過去の貢献への顕彰ではないのかというものでした。今、必要な事は、生きた「あか牛」の増殖こそ急ぐべきではないかという思いでした。

しかし、府内会長から国においては、農政の基本方向や計画が議論され、新たな展開が示されようとしているいいタイミングである事、また、県内では「あか牛」増殖の為、関係者一丸となって取り組む事をすでに話し合い決意している事も伺いました。

そこで、私なりに、今後の「あか牛」復活について意を強くし、応援と全面的なご協力を申し上げた次第です。

先般、閣議決定されました肉用牛の増頭や牛肉の自給率向上は、これから十年先の明確な目標数値です。「あか牛」につきましても、明確な目標を持って進んでいきたいものです。この際、全国各地の「あか牛」に関心を持つ多くの人々からご支援を頂いた事をも思い、「あか牛」と阿蘇の関わりや位置付け、担い手等を再構築し、安心・安全・健康イメージの向上に繋がるような産地作りに向けた、ご努力を期待すると共にお願い申し上げます。

最後に、蛇足ながら「あか牛」復活の為、微力ではありますがこれまで同様支援して行きたいと考えております。



## 祝 辞

社団法人 家畜改良事業団  
理事長 板井 康明

あか牛のブロンズ像がめでたく建立の運びとなりましたことを、心からお慶び申し上げます。

併せて、建立のために尊い浄財をお寄せになった方々のあか牛に対する熱い想いと建立委員会の府内会長を始め関係者の御努力に対し、深く敬意を表します。

また、皆様方には日頃から家畜改良事業団の業務に対し、ひとかたならぬ御理解と御支援を賜っており、厚く御礼申し上げます。

あか牛は今さら云うまでもありませんが、放牧適性に優れ、早熟、早肥であり、まさに今日的な肉用牛であります。加えて草原を背景に悠然と草を喰む風景は、あか牛のみに留まらず畜産に対する消費者のイメージアップに多大の寄与をしています。

現在、農水省において「酪農及び肉用牛の近代化を図るための基本方針」、「家畜改良増殖目標」の策定が進んでいますが、環境にやさしい持続的な畜産、良質で安全な畜産物の提供、自給率の向上等の観点からも、あか牛は高く評価されるべきものと考えます。

このように素晴らしいあか牛が近年漸減傾向にあることを淋しい思いで見えていたが、今一度あか牛の良さを見直し、消費者に喜ばれるあか牛の生産拡大の契機にするべく、関係の方々が一丸となってあか牛ブロンズ像を建立されたことは誠に時宜を得たものがあります。

昨年十二月に銀座のど真ん中にシャネルビルが完成しシャネルが開店したことはご承知の方が多いと思いますが、このビルにシャネルがフランスの三星レストラン（アランデュカス）と提携して、シャネルとしては世界初の高級レストラン「ベージュ トウキョウ」を開業しました。このレストランは数カ月先まで予約で一杯というほどの盛況を呈していますが、ここで牛肉はあか牛が採用されております。

世界のブランドがあか牛の良さを認めてくれたことにほかならず、大変喜ばしいことです。

また、ブロンズ像の雄のモデルは「光重ET」であると伺っており、私にとりましても感慨深いものであります。

私は二十数年前熊本県畜産課にお世話になっていました。その時全国に先駆けて畜産農家の御協力を得ながら、畜産課、畜産試験場、家畜保健衛生所が総力を挙げて受精卵移植に取り組みましたが、現在では熊本県は全国最先端の技術の高さと高い普及を見えています。このような中から「光重ET」も生産されたわけであります。

この技術は資源が限られるあか牛の改良や増殖に更に機能が発揮出来るものと期待されます。

これから先、あか牛にとっての道のりは決して平易なものとは思いませんが、あか牛に関係する方々が自信を持って、元気をだして、このあか牛ブロンズ像建立に向けた熱意を結集し、更なるあか牛の振興に邁進されることを祈念して祝辞といたします。



## 祝 辞

「あか牛の夜明けは間近に」

社団法人 日本草地畜産種子協会

会長 浅野 九郎治

この度、阿蘇高原への登り口にあか牛を讃える立派なブロンズ像が建立される運びとなりましたことは誠にめでたく心からお慶び、お祝いを申し上げます。私にとりましても永年の悲願でありましただけに喜びもまた一入のものがあります。

顧みますとあか牛との出会いは1973年熊本県庁に奉職をさせていただく僥倖に浴した時であり、以来大自然の豊饒な恵みと他に類を見ない地域の人々の熱き想いと愛情の結晶ともいえるあか牛の素晴らしさ、底力に魅了されるところとなり、微力ながら自らもそのサポーター役を務めて参りたいと心に決め今日に至っております。

その後あか牛を取りまく環境・情勢は必ずしも順風満帆とはいえず特に牛肉の輸入自由化を契機に大きな試練の嵐に見舞われ、かつてない苦難の道を歩むことになりました。

しかし時代は大きく変わろうとしており長い冬の時代は終わりを告げ夜明けが近づきつつあります。

これまで我が国の畜産は海外からの輸入飼料に依存した集約・加工型の拡大路線により発展を遂げてきましたが家畜排泄物の処理問題に加え輸入飼料に起因するとみられる各種伝染病の汚染が懸念されるとともに食品の安全性の確保や自給率の向上の見地からこれまでの過度な海外依存体質から自然生態系に根ざした資源循環・持続型畜産への転換が切に求められております。

このため、現在5つのスローガンの下に国を挙げて飼料増産運動が展開されておりますが特に放牧の推進は運動の中核をなすもので、近年ソーラー電牧技術開発の進展や転作田や耕作放棄地等未利用資源の積極的な畜産的活用による放牧利用が肉用牛、乳用牛を問わず全国各地に急速に普及拡大するようになってきました。その取組みの姿勢、動きは従前の抽象的、建前論から実益検証、実践の段階に入り畜産農家の経営所得の向上はもとより地域全体の活性化、経済浮揚に大きな貢献を果たすようになってきました。

こうした動きの中で他の品種に比べ放牧適性や粗飼料の利用性に優れ、早熟早肥の産肉能力を有するあか牛の果たす役割は阿蘇高原のみならず水田・畑放牧においても次第に高まっていくものと確信いたします。

牛肉に対する一般消費者の嗜好性も従前の脂肪交雑偏重からヘルシー志向、バランスのとれた食メニューに次第に変わってきており、その証左に東京の銀座周辺のレストランや食肉老舗店、大阪のメインデパートなどでは軟らかく、肉汁に富み、旨味のあるあか牛肉が高く評価され、消費が年々増加していることは誠に心強い限りであります。

最近の知見として注目すべきことは放牧によって生産される牛肉や牛乳にはビタミンやミネラル等の栄養素が豊富に含まれているのみではなく、高血圧を低下させたり抗ガン作用等免疫力を高める健康増進機能が舎飼い牛に比べかなり高いことが実証されるに至りました。

太陽の光の下で健全な土、草によって育まれるあか牛をはじめ健康な放牧牛のもたらす恵み、畜産の営みこそ21世紀の人々のもっとも求めて止まないものであり、我が国畜産の主役であると言っても過言ではないと思います。

あか牛の限りない躍進、発展を心からお祈り申し上げます。





## 祝 辞

熊本県町村会

会長 富永清次

あか牛ブロンズ像の建立に当たり、県内の町村長を代表いたしまして一言お祝いの言葉を申し上げます。

阿蘇五岳をはじめとして、世界最大のカルデラやそれを囲む外輪山、更には広大な草原や森林、水源や温泉といった豊かな自然に恵まれたこの美しい地域は、本県が世界に誇るすばらしい自然であり、阿蘇くじゅう国立公園をはじめとする自然公園に指定され、国内はもとより、アジアをはじめ世界各国から多くの観光客が訪れております。春から秋にかけて、阿蘇の様々に移りゆく草原の自然の中で多くのあか牛が放牧され、観光のシンボルとして阿蘇を訪れる人々の目を楽しませております。

さて、この度、建立されましたあか牛は、元々、粗食に耐える農耕用の牛として飼養されておりましたが、昭和40年頃から肉専用種として改良を始め、その後も研究者や飼養農家の御努力による改良が重ねられ現在に至っております。

全国でもあか牛の安定供給ができる地域は少なく、阿蘇に代表される豊潤な水と鮮烈な緑に恵まれた大自然の中で大切に、そして健やかに育てられているのは熊本だけではありません。

近年、牛肉の輸入自由化やBSEの発生、飼養農家の高齢化等、あか牛を取り巻く環境が大変厳しい中であって、全国での飼養頭数が3万2千頭余りであるのに対し、熊本ではその8割以上が飼養されております。このことは、関係者の皆様のたゆまない御努力の賜であり、心から敬意を表するものであります。

現在、熊本県町村会としまして、すばらしい自然を有する阿蘇、天草の両国立公園を中心とした観光立県熊本の確立に向けて取り組んでいるところでありますが、この時期にあか牛ブロンズ像が建立され、阿蘇の観光の名所が一つ増えますことは、大変時宜を得たものであり、私どもにとりまして非常にありがたく感謝申し上げる次第であります。

最後になりましたが、このあか牛ブロンズ像の建立にあたり、ご尽力をいただきました関係団体並びに関係者の皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、このブロンズ像が阿蘇の玄関口で多くの観光客の目を楽しませ、いつまでも光り輝きますよう祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



## 祝 辞

阿蘇市町村会

会 長 宮崎 暢俊

阿蘇は、四季の移ろいととも様々表情を見せ、人々の心を癒し大きく包んでくれます。また、世界有数のカルデラとともに阿蘇地域が持つ魅力の多様性によって、年間1900万人が訪れる県内でも最大の観光地になっています。なかでも阿蘇の草原は阿蘇観光の魅力のひとつで、雄大な草原の中で「あか牛」が、のんびりと草を食む姿は、人々の心を和ませ、阿蘇を代表する自然豊かな風景として、なくてはならないものとなっております。

ご承知のように、農畜産業や農村を取り巻く諸状況は依然として厳しく、高齢化に伴う中核的農家の減少、それに連動する後継者の問題、水質や土壌の汚染防止等に象徴される環境への配慮、野焼存続などの畜産、草原の対策等、課題は多く、到底行政のみでは対応できない難問を抱えております。

草原の維持も極めて困難になってきていますが、近年、輪地切りや野焼きボランティア、「あか牛オーナー制度」など、さまざまな再生に向けた取り組みとネットワークの輪が広がりを見せていることに心から感謝しているところでございます。

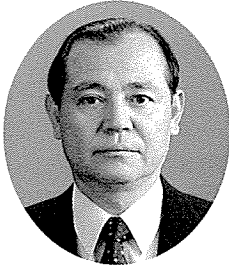
阿蘇の「あか牛」は、古くは農耕・運搬などの役用牛として活躍し、その後、シンメンタル種を用いるなど、様々な改良が重ねられております。

BSE問題、食肉偽装表示など食への関心が高まっている今日「あか牛」は阿蘇の雄大な草原を活用した、安全で安心な「肥後牛・阿蘇のあか牛」ブランドを確立し、その名が知られるようになりました。

昭和9年に阿蘇くじゅう国立公園に指定され、70周年を迎えた記念すべき年に、「あか牛ブロンズ像」が建立されることは、阿蘇に魅力がもう一つ加わり、阿蘇地域の農畜産振興と観光・地域振興に大きく貢献し、また阿蘇の「あか牛」に思いを寄せる人々の大きな力となるものと思います。

私たちは、この豊かな自然を護りつづけ、農業が持つ環境維持機能、安全な食を提供する生命産業としての崇高な精神のもとで、都市住民の理解と協力を得ながら集落を維持しつつ、農業・農村の社会的評価を大きく高めていくため、今後とも関係団体はじめ阿蘇地域一体となった取り組みを進めていかなければならないと思っております。

今回の「あか牛ブロンズ像」の建立は、熊本県畜産農業協同組合連合会の会長さんをはじめ役員の方々並びに組合員の皆様が「あか牛」への思いをひとつにして、努力し、精力的に取り組まれた結果でありまして、衷心より敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。



## 祝 辞

J A熊本中央会

会長 園 田 俊 宏

あか牛ブロンズ像が、この度、雄大な阿蘇の地に建立されますことを心からお喜び申し上げます。

併せまして、あか牛ブロンズ像建立のためご尽力いただきました建立委員会の府内会長はじめ生産者ならびに、関係機関の皆様には深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、畜産を取り巻く情勢は、BSE問題等を契機として、消費者の食の安全・安心に対する関心が高まる中で、アメリカ産牛肉の輸入の取扱いが政治問題化するなど、グローバル化が進展しています。

また、昨年11月には家畜排泄物法が施行され、これにともなう糞尿処理施設の整備が求められ、コスト増による畜産経営の悪化が懸念されております。

一方、熊本特産のあか牛は、放牧飼育に適した品種として、阿蘇地方を中心に飼育され、広々とした阿蘇の草原に群をなし、草を食む風景は、阿蘇地方の風物詩となっています。

言うまでもなく、放牧は、コスト低減に最も有効な経営形態であり、また、草原の維持にも貢献するなど大きなメリットがあります。

さらに、あか牛は、近年の健康志向が強まる中、柔らかくておいしいヘルシーな牛肉として、消費者の高い評価を得てきております。

このような中で、「光重ET」を主人公としたファミリーブロンズ像を建立されますことは、あか牛生産に携わる方々の思いの具現化であり、熊本が誇る「あか牛」のさらなる振興につながるものと確信するところであります。

現在、県下JAグループでは、一昨年に開催しました第21回JA熊本県大会の決議を受け、共通農業戦略の実践に取り組んでおります。

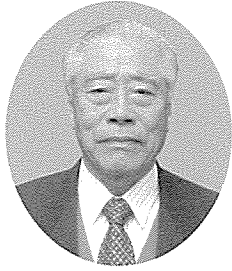
その中で、競争に勝ち残れる商品づくり、新たな環境で発展できる地域農業づくりなどを推進しております。

また、私どもJAグループでは、今まで諸外国からの輸入攻勢に対し、輸入制限や関税など国境措置による「わが国農業を守る運動」を重点的に実施してきました。

しかしながら、いまや守りだけでは、わが国農業の維持は困難な状況にあり、そのため、本県では、農畜産物輸入連絡協議会を立ち上げ、県産の優れた農畜産物・加工品などの輸出に向け準備中であります。

まだまだ、厳しい環境は続くと思われませんが、このあか牛ブロンズ像建立を契機として、生産農家の意欲向上と、力強い熊本畜産が形成されますことを期待するものであります。

最後に、本県畜産の益々の発展と、「あか牛」のさらなる振興を衷心より祈念いたしまして祝辞といたします。



## 祝 辞

社団法人 日本あか牛登録協会  
会長 續 省 三

あか牛を愛し、あか牛に期待する各位のご協力とご支援をいただき、あか牛のブロンズ像が見事に建立されましたことを心よりお祝い申し上げます。

あか牛が「褐毛和種」として指定されてから60年、この間、熊本県を主体に全国各地で飼養され、畜産業のほか、阿蘇地域では観光産業にとって重要な役目を持っております。

本年は日本農業の再出発の年に当たります。

食料自給率の向上、安全安心な食料の供給、耕作放棄地など農地の有効利用の促進などを盛り込んだ新しい食料、農業、農村基本計画や、酪肉近代化基本方針の公表など続いています。このような計画を達成するためには、飼料効率が高く、放牧適性があり、早熟早肥で群飼いに向くあか牛が出番となると信じています。

あか牛の60年の歴史の中には、幾多の困難な事態が生じました。平成3年の牛肉輸入自由化の決定以降は、子牛価格の暴落が見られましたが、平成5年、黒毛和種と褐毛和種の保証基準価格が分離され、繁殖子取経営は安定をみました。その後、飼養農家の高齢化による飼養中止などで、飼養頭数は半減するにいたりました。BSE発生後は、安全安心食品への消費者の指向、牛肉トレーサビリティの施行、米国産牛肉輸入禁止などが重なり、あか牛の繁殖、肥育経営の両者とも好調で、この間、南阿蘇畜産農業協同組合が日本農業賞を受賞する快挙もあり、あか牛の飼養頭数は減少から横這いに転じて参りました。

平成4年、「光重ET」が選抜され、脂肪交雑の育種価は第1位で、肉質改良の面で、あか牛史上最高の種雄牛となりました。この精液の利用によって市場価格が上昇し、全国各地の関係者から感謝の声を聞きましたが、いかに経済効果が高かったか、また育種改良の効果の大きさを痛感したものであります。

また、その後継牛として、「第三光重」「第四光重」「第十六光重」など多数の種雄牛を育成された熊本県のご努力に感謝するとともに、それらの精液を全国ベースで公平に配分された関係機関に敬意を表したいと思えます。優秀な種雄牛によって、今後のあか牛がますます発展することを期待いたします。

あか牛の改良発展に大きく貢献した「光重ET」をモチーフに、雌牛と子牛の温かいファミリー像が建立されることは、熊本阿蘇の新名所となり、観光客の強い関心を引き、自然景観の保護と草原の維持保全の重要性を訴えることに連なるものと信じます。

終わりに当たって、建立委員の一員として、協賛を賜りました各位に心からの謝意を表するとともに、建立にご尽力された府内会長はじめ関係の皆様へ敬意を表し、祝辞といたします。

# あか牛の歴史および特質

## 1. あか牛の成り立ち

熊本県内の各地には古くから赤牛または肥後牛と呼ばれる在来牛が飼養されていた。これらの牛はたびたび輸入された朝鮮牛が、この地方の気候風土に順応して増殖し土産牛となったものとされており、一般に体質が強健で粗食に耐え、性質は温順で使役に適していたが、一面、体格が小さく晩熟で、とくに後躯の発達が劣ったものが多かったということである。

明治初期までは、繁殖もただ原野に雌雄を混じたまま放牧し、意識的な改良は行なわれなかったため、当時の毛色は淡褐色が主体ではあったがかなり濃褐色の牛もみられ、また黒色、灰色、斑毛、虎毛のものも多く、体型もきわめて雑多であったと想像される。

明治時代になると、政府は勸農政策の一環として畜産業の発展を企図し、牛も外国種の種雄牛を輸入して改良を図ったが、その雑種は体格があまりに大きく使役能力も劣っていたため、一般には普及はしなかった。

しかし、農商務省は外国種との交雑によって和牛を改良するという方針を定め、明治33年に洋種牛の増殖ならびに供給の基地として広島県に七塚原種牛牧場（後に種畜牧場と改称）を設立した。この牧場から払い下げられたシンメンタール種の種雄牛「スイス」号は、明治39年頃から、県立阿蘇農学校に繋養され、波野村、産山村、色見村などへも巡回種付を行い、種雄牛「釜割」号をはじめ体格のすぐれた仔を多く生産し、この地域の赤牛の改良に貢献した。

さらに明治44年には大分県速見郡に設置された同場大分種牛所から「フェリック」号が宮地町へ、「ルデー」号が高森町へ派出されたのを手始めとして、その後多数のブラウンスイス種、シンメンタール種及びその雑種が貸下げられた。

それらの産仔は概して体格が大きく、熟性が早まり、とくに後躯の充実が著しかったので、しだいに外国種とくにシンメンタール種の種付頭数が増加していった。大型化を示す例として、体高について明治40年頃には雄約123 cm、雌約112 cmにしかすぎなかったのに対し、昭和3年には雄約131 cm、雌約121 cmとそれぞれ10 cm近くも増加したことが記録されている。また毛色に関しても、あか牛との戻し交雑を繰り返すことによって、白斑は体表部から消え下腹部に集まる傾向が見られ、しだいに褐毛単色となっていった。

当時、阿蘇地域に飼養されていた牛の毛色は、褐毛、黒毛、斑毛が混在していたが、大正3年、種雄牛の毛色を整理し、在来の赤毛牛と黒毛牛の混養を避けることという農商務省の技師の指導を受け、「南北小国村ならびに産山村を除いて他はすべて赤毛牛とすること」に方針が定められ、以後のあか牛改良の方向づけが確立した。

この時代のあか牛の用途はもちろん農耕、運搬等の使役が主であったが、肉用としても九州各地、中国地方まで移出され、肉質の評価がかなり高かったと言う記録がある。

大正12年熊本県は、「各県独自の立場から自県産牛の改良増殖の成績を検討し、それぞれの実情に応じ採長補短を行った目標を樹て、選択淘汰により各県ごとに適応した牛種の固定を図ること」という国の方針に応じ、それまでかなり雑多であった牛群を整理固定し、赤毛肥後種の名称の下に登録規程、標準体型及び審査標準を制定し、あか牛の積極的な改良に着手することになった。

あか牛の飼養頭数は昭和初期から政府の有畜農業奨励もあって増加の一途を辿り、昭和19年、和牛を1つの固定種とみなすにあたり、黒毛和種、無角和種とともに熊本、高知両県の褐毛種は一括して褐毛和種と称されることとなった。ここではじめて、あか牛が品種として公式に成立したのである。

## 2. あか牛の特質

昭和30年頃から我が国は食生活の洋風化が進み、肉食が普及し、牛肉の需要が増加した。また農作業や運搬の機械化に伴い、あか牛はそれまでの使役利用が衰退し、良質な牛肉をより多く生産する肉専用種へと転換した。

あか牛の特質は、

- ①体質強健で、性質がおとなしく、飼いやすい。
- ②草の利用性に富み、特に放牧に適している。
- ③繁殖能力が高く、泌乳量が多く、子牛の発育が良い。
- ④肉牛として仕上がりが高く、肉量が多く、肉質も良い。などがあげられる。

大きさは、成牛雄で体高148～154cm、体重980～1000kg、成牛雌で体高133～137cm、体重550～600kgである。

現在、原産地の熊本県をはじめ北海道、秋田県、岩手県、埼玉県、静岡県、長崎県で飼われている。



## ブロンズ像になった種雄牛「光重E T号」の紹介



### 光重E T号

登録番号：育種高等1（92点）

生年月日：昭和63年1月22日生

生産者：阿蘇郡南小国町中原 森口安則氏

所有者：熊本県

昭和61年11月、熊本県畜産農業協同組合連合会主催の第9回熊本県肉畜共進会で1頭の肉牛が注目を浴びた。この肉牛は小川町（現宇城市）上田公一氏が出品した生後24ヶ月齢の弦丸号で、第二光丸号を父とする去勢肉牛3頭セットの中の1頭であった。生体は肉付き良好、柔らかい被毛で仕上がり状態も良く、その枝肉はロース芯面積が大きく、バラが厚くてよく充実しており、肉色鮮やかで見事な脂肪交雑であった。この牛は共進会のグランドチャンピオンとなり、農林水産大臣賞を受賞、枝肉はkg当たり6,100円、総額268万円の高値で販売された。この肉牛の母親が第五つるくさ号であった。

第五つるくさ号は昭和56年4月3日生れ、砥用町（現美里町）船田喜二郎氏の生産である。同年12月3日の下益城市場に上場され、小川町（現宇城市）辰井千代勝氏が購入し繁殖牛として飼養されていた。

当時、熊本県は受精卵移植技術を応用したあか牛改良を推進中であり、種雄牛作りに用いる高能力の雌牛を探索中であったが、絶妙のタイミングで共進会の情報がもたらされたため、直ちに下益城郡畜産農業協同組合（現熊本県畜産農業協同組合城南支所）を通じて県への提供をお願いした。所有者の辰井氏は「あか牛改良に貢献出来るなら喜んで協力し

ましよう」と快諾され、第五つるくさ号は畜産試験場（現熊本県農業研究センター畜産研究所）で供卵牛として活用されることとなった。交配する種雄牛は肉畜共進会出品牛と同じ第二光丸号が用いられ、回収された受精卵は直ちに家畜保健衛生所を通じ各地の協力農家の雌牛に移植された。一連の移植によって16頭（雄7頭、雌9頭）の子牛が誕生した。[この内の1頭が昭和63年1月22日に南小国町森口安則氏所有のあか牛から生まれた光重ET号である。]これらの子牛は産子調査の結果、雄2頭が候補種雄牛として選定され、雌牛の7頭は改良用の基礎牛として繁殖に利用されることとなった。候補種雄牛に選ばれた光重ET号と弦丸ET号の2頭は畜産試験場阿蘇支場（現農業研究センター草地畜産研究所）において産肉能力直接検定に供され、いずれも発育、飼料効率など優れた成績を上げたが、体高の発育が決め手となり光重ET号が選抜された。その後、光重ET号は畜産試験場に移管され、後代牛を用いた間接検定の結果、同期比較の他の種雄牛より飛び抜けた成績を上げ、農家で実施されたフィールド検定においても優秀な成績を取めたことから、肉用牛改良推進委員会は平成4年度の検定済み種雄牛として選抜を決定し、凍結精液の本格供給が開始された。

あらためて光重ET号の血統を見てみると、父牛の第二光丸号は球磨地方で活躍した第五光浦の流れを汲み、鹿本地方で肉質に定評があった光優の後継牛で広域利用された光武と、南阿蘇地方の基礎をなす福花系重福及び菊池地方で使われた朝栄系竜栄の血統を引く第三みつとの交配で作られた種雄牛である。一方、母牛の第五つるくさ号は昭和50年代に一世を風靡した第十重川と下益城地方の雌系統つるくさとの交配により作られたが、父方祖母のそしげと母方祖父の弦重はいずれも大津町の名牛そえいの子で、阿蘇地方で活躍した重川の血がやや濃い。このように光重ET号の祖先にはあか牛の主要系統の内、4つの系統が含まれており、第五光浦の肉質と福花、重川の体積・均称並びに朝栄の資質など、それぞれの系統の美点をよく受け継いでいる。しかも、利用に際しては雌側を選ぶことなく、いずれの系統との交配でも良い結果を残しており、非常に使いやすい種雄牛であった。

わが国は平成3年、牛肉の輸入が自由化され、地方特定品種は大きな打撃を被ったが、子牛価格が長期に低迷したこの時期に光重ET号は彗星のごとくデビューした。産子は発育良好で体積・均称に優れ、毛色はやや淡く被毛の良いものが多かった。その枝肉は重量、ロース芯の形と大きさ、バラ厚、脂肪交雑のいずれにおいてもずば抜けた成績で、特に肉色の良さには定評があり、各種枝肉共励会でも常に上位を独占し関係者を魅了した。子牛市場においても抜群の人気で県内外から購入希望者が殺到して活況を取り戻した。

光重ET号の能力は育種価でも裏付けられている。熊本県は昭和59年から肉用牛育種改良情報システムを構築し、種雄牛、雌牛の育種評価情報を提供しているが、光重ET号は平成4年に評価開始以降、脂肪交雑、バラ厚については長年にわたって首位を独占し、枝肉重量も一貫して上位に位置づけられており、肉量・肉質を兼ね備えた能力を有するこ



とが証明されている。なお、脂肪交雑に関しては平成 15 年に息牛の第十六光重号に首位を明け渡したが、バラ厚に関しては依然として第 1 位を維持している。

平成 6 年 10 月 12 日、社団法人日本あか牛登録協会によって育種高等登録の審査が行われ、光重 E T 号は優れた産肉成績に加え、類い希な外貌、即ち均称・体積、体の幅、伸び、深み、尻、腿の充実、資質の全てにわたって肉用牛として理想的な体型を有していることから、登録牛の最高峰である育種高等登録の第 1 号として認定された。

関係者の期待を一身に背負い、大活躍の光重 E T 号であったが、平成 7 年 2 月、精液の採取量が徐々に減少してきた。関係機関のご協力によりあらゆる手だてを講じたが回復に至らず、同年 5 月以降遂に凍結精液が製造出来なくなった。生涯の凍結精液製造本数は 47,957 本、産子数は実に 22,500 頭に及んだ。産子から候補種雄牛として 51 頭が選ばれ、第三光重号、第四光重号、第十四光重号、第十六光重号、鷹楽重 E T 号、光 9 5 3 号など多くの後継種雄牛を輩出した。これらは基幹種雄牛として全国の産地で活躍しており、中でも第四光重号、第十四光重号、第十六光重号が出色である。また、雌牛は 2,300 頭が繁殖牛として供用され、既に孫世代も育種改良の中核として重要な役割を担うなど光重 E T 号の遺伝子は確実に次の世代に引き継がれている。

牛肉輸入自由化後の厳しい時期にあか牛関係者に希望の光を灯し、あか牛の産肉能力向上に多大な貢献をした光重 E T 号は後に“あか牛の救世主”と呼ばれるに至った。光重 E T 号は歴史に残る名牛として後世に語り継がれるであろう。

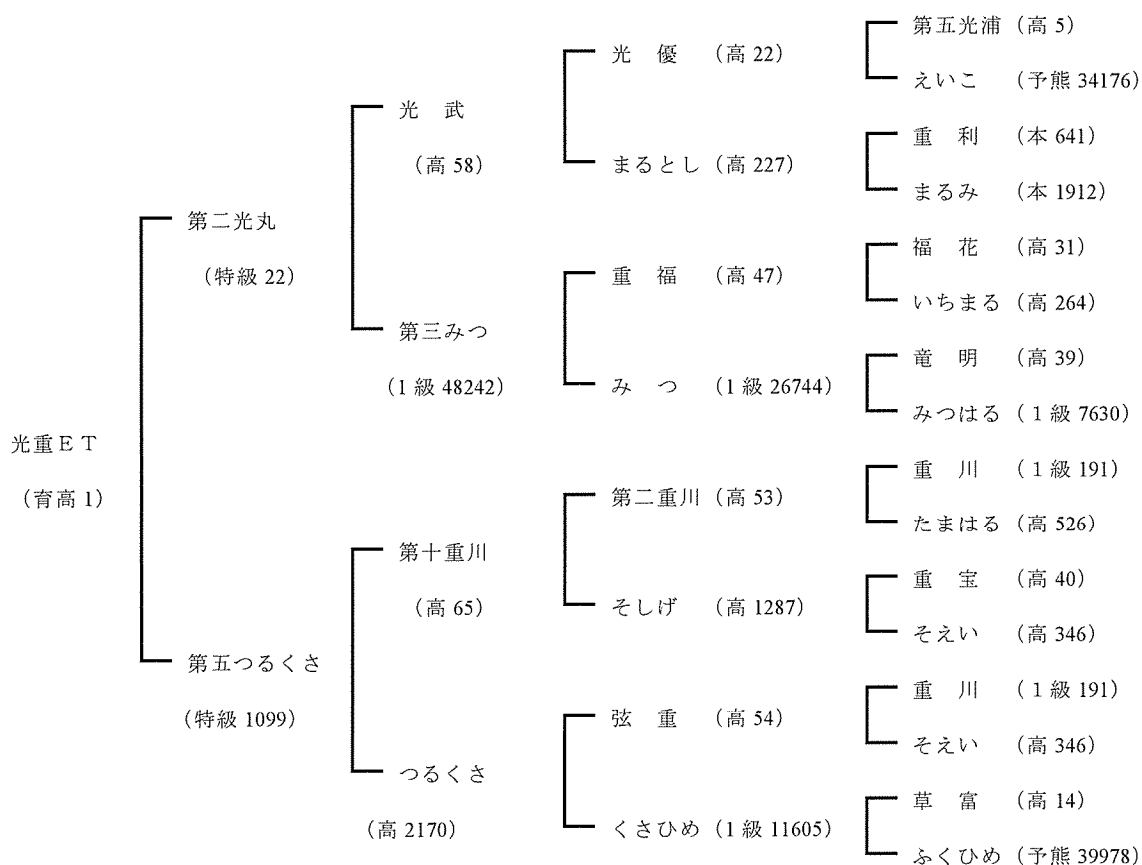


図-1 光重 E T 号の血統

表-1 第9回熊本県肉畜共進会（昭和61年度）における弦丸号の成績

出品番号	名号	生年月日	父	母	出品団体	出品者	繁殖者	肥育期間	生後日齢	搬入時体重	DG
2-3	弦丸	S59,11,1	第二光丸(特22)	第五つるくさ(特1099)	下益城畜協	小川町上田公一	砥用町辰井千代勝	日435	日726	kg713	kg0,94

体高	胸囲	胸深	体長	寛幅	尻長	管囲	屠畜前体重	枝肉重量	背脂肪厚	ロース芯面積	脂肪交雑	枝肉格付	枝肉単価	枝肉価格
cm133	cm223	cm74	cm156	cm52	cm54	cm20	kg686	kg453	cm2.0	cm <sup>2</sup> 60.3	3	極上	円6,100	円2,680,340

表-2 光重E T号の産肉能力（直接）検定成績

検定番号	開始日齢	開始体重	終了体重	DG	365日齢補正体重	400日齢補正体重	1kg増体当たりTDN	粗飼料摂取率	産肉能力得点	評価
63-12	243日	285.0kg	458.7kg	1.55kg	474.2kg	528.4kg	3.89kg	18.6%	93.5	A

注1) 検定期間（S63,9,21～H1,1,11）

表-3 光重E T号の産肉能力（間接）検定成績

開始体重	終了体重	DG	1kg増体当たりTDN	屠前体重	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	筋間脂肪厚	脂肪交雑
323.4kg ± 23.7	692.6kg ± 46.3	1.12kg ± 0.12	5.92kg ± 0.40	662.0kg ± 47.9	429.2kg ± 32.8	46.3cm <sup>2</sup> ± 5.3	6.9cm ± 0.5	2.4cm ± 0.3	72.5% ± 1.0	5.6cm ± 0.8	1.8 ± 0.5

注1) 検定期間及び頭数（1期H3,7,3～H4,5,27：5頭）、（2期H3,7,24～H4,6,17：3頭）、（3期H3,8,21～H4,7,15：2頭）  
注2) 検定方法は乾草は給与せず粗飼料としてコーンコブを配合したコンプリートペレットを自動給餌機で給与した。

表-4 光重E T号の育種評価成績（期待後代差＝E P D） 1999/5/20 評価

枝肉重量		BMS No.		ロース芯面積		バラ厚		皮下脂肪厚	
E P D	順位	E P D	順位	E P D	順位	E P D	順位	E P D	順位
13.723	13	1.439	1	1.178	47	0.470	1	-0.094	67

表-5 光重E T号の凍結精液製造

単位：本

年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	合計
製造本数	1,906	2,070	10,544	6,918	11,930	14,516	73	47,957

表-6 光重E T号の産子生産状況

総生産頭数	22,500頭
雌登録頭数	1,945頭
登録種雄牛	第二光重(繁19)、第三光重(繁29)、第四光重(高82)、第五光重(繁41)、第六光重(繁43)、第七光重(繁47)、第九光重(繁54)、第十光重(繁56)、第十一光重(繁57)、第十二光重(繁58)、第十三光重(繁59)、第十四光重(高83)、第十五光重(繁64)、第十六光重(繁68)、第十七光重(繁75)、第十八光重(繁79)、第十九光重(繁80)、第二十光重(繁81)、光953(繁73)、第二十一光重(繁97)、重栄E T(繁72)、光明E T(繁84)、鷹楽重E T(繁94)、光平E T(繁98)、光菊(繁99) 25頭

表-7 光重E T号の育種高等登録審査得点（審査日 平成6年10月12日）

一般外貌			頭・頸 (4)	前軀		中軀			後軀		乳器・生殖器 (4)	肢蹄・歩様 (4)	得点 (100)
発育・状態 (10)	均称・体積 (20)	資質・品位 (20)		肩 (4)	前胸 (2)	胸・肋 (6)	腹 (4)	背・腰 (8)	尻(臀) (8)	腿 (6)			
90	95	90	90	85	90	90	90	95	95	90	90	90	92

注1) ( )内は配点

表-8 光重E T号の体各部位の測定値（測定日 平成6年10月12日） 単位：cm、kg

体高	十字部高	体長	胸囲	胸深	胸幅	尻長	腰角幅	かん幅	座骨幅	管囲	体重
148	141.5	184	232	82	55	62	59	58	41	24.1	1,012



## あか牛ブロンズ像建立に向けて

北海道あか牛振興協議会

会長 小原 秀樹

北海道のあか牛は、約 10 年前は 5,500 頭を数えましたが、輸入自由化による価格低迷や後継者不足などの要因により年々減少を続け、現在は 3,000 頭を割るという非常に厳しい状況です。

しかし、繁殖・哺育・育成から肥育までの、全ステージにわたる飼いやすさ、様々な環境に適応し粗食に耐え、放牧に適し、早熟・早肥といったあか牛の特性はすばらしいものがあります。またその肉は程よい脂肪を蓄え、ビタミンB<sub>1</sub>やB<sub>2</sub>をはじめミネラルや鉄分を含み非常においしく、そして健康的なものです。

このように、生産現場から消費者に至るまでとても魅力に溢れたあか牛は、まさに「国民的救済牛」と呼ぶにふさわしい和牛です。

北海道各地で頑張っているあか牛生産者はこのすばらしい資質を持つあか牛を、心から愛し信頼している仲間たちです。

しかし、私たちのあか牛改良のためには、熊本県から優良な遺伝子の提供を受けなければならず、これまで凍結精液や繁殖素牛、そして種牛を導入してきました。この状況はこれからも変わらないと思います。

そんな中私たちのあか牛改良にとっても、多大な貢献をしてくれたのが「光重E T号」です。

現在の困難な畜産環境の中、「あか牛」で立ち向かっていける力を私たちにくれたのは、「彼」とその息子たちの貢献に因るところが大きいと言っても過言ではありません。

需要の多さによる血統の偏りなどが指摘されますが、幸い北海道各地には熊本県では希少となった血統が息づいており、「光重E T」ファミリーとの掛け合わせが、枝重量、ロース芯面積やバラの厚さの向上に大きく貢献してくれたと思います。

今般この「光重E T号」の功績を讃え、あの雄大な阿蘇の大草原にブロンズ像が建立されると聞き及び、北海道の地よりもお喜び申し上げるとともに、共に讃え、北海道のあか牛を確固たるものにするため、私たちはより一層の努力を重ねていく所存です。

# 阿蘇のあか牛との出会い

元 静岡県経済連西部畜産事業所長 鈴木 一則



昭和25年4月、県農業会の解散によって分離設立された指導連畜産部で子牛と緬羊の導入及び種子豚の販売を担当していた私は、あか牛の販路拡張に來会した熊本県畜連の工藤君をつかまえて、あか牛の展示即売会をやろう・・・と熱っぽく口説いていた。

当時、本県の役用牛は中、西部の水田地帯が黒牛で約6割、富士山麓と伊豆半島及び小笠郡の一部では鮮牛と呼ぶ褐牛が飼われていた。

戦時中は鮮牛商事(株)と云う統制会社が一手に朝鮮半島から輸入していたが、殆どがヌキであったため終戦によって輸入が途絶えると老齢化した牛の更新ができず、鮮牛に代わる褐牛の導入に頭を痛めていた時だったから、良いお客さんが来たとはばかり、なんとしても阿蘇牛導入の目途をつけたいものところを先途と口説いた次第である。

手の下地獄、と言われた牛の取り引きで正札付きの展示即売会など奇想天外の着想と思うが私はすでに23年から24年の春にかけて高知県畜連と山口県の柳井郡畜連と組んで種子豚の出張オークションをやって(1回150頭)成功したノウハウを持っていたから、子豚を子牛に置き換えるだけだから必ずできるものとの自信を持っていた。

初対面の若造に思いがけない話を切り出されて面食らった工藤君もこちらの熱意がわかってくと次第に乗り気になり、最後には、よし、わかった、君の熱意には敬服するよ、しかし子牛の出張販売など前代未聞のことだから帰って皆とよく相談して返事をする・・・と言って帰ったが、10日程すると県畜連の仕事としてやるように決定したから具体的な要領を決めてほしい、と言ってきたのでこちらも早速検討会を開き、頭数は50頭程度、日時は最も子牛の需要の多い田植上がり7月の第1日曜、場所は三島大社の流鏝馬の馬場とし、販売は、せり、ではなく正札付きの相対とすることで、おそらくあそ牛始まって以来の即売会の開催が決まった。

共催を決めた以上、売れ残りが出たのではこちらの面子にかかわるから東部の農協は勿論、近隣の家畜商の親分衆にもしっかりと挨拶を通しておいたので当日は予想外の人が集まり、連れてきた50頭はあらかた午前中に売り切ってしまった。

これが、私にとって以来半世紀にわたる阿蘇のあか牛との付き合いの最初の出会いであり、生涯の盟友となった工藤益雄君との記念すべき出会いでもあった。

その後即売会は翌26年の7月、褐牛登録協会も参画し、褐牛研究会として開催したが27年からは有畜農家創設事業が始まり県畜連も設立されて購買体制も整ったので現地購買に切り換え、32年までは専ら役用牛として年間300頭前後を導入してきたが33年に入ると役用牛の需要は殆んど無くなり購買も中断してしまった。

本県の肉牛は不要になった役用牛を肥育することから始めたため、3～5才の壮齢素牛を使った6～8カ月の短期肥育であったから35、6年になると壮齢素牛の入手困難と値上がりで軌道に乗り始めた肥育事業が大きな壁にぶつかったところで思い付いたのが乳用牝子牛の利用とあか牛の若齢肥育であった。

当時すでに黒ヌキの子牛を使った若齢肥育は始まっていたが、200キロそこそこの素牛で2年近くもかかる若齢肥育には短期肥育の味を知った本県の生産者は見向きもしなかったが、この先壮齢の素牛が手に入らなくなれば背に腹は代えられんな・・・と思い到ったところで36年の春から登場させたのが、あか牛の♀子牛の若齢肥育であった。

当時、♀で300キロくらいの子牛は珍しくなかったからなるべく大きな子牛を買って高蛋白の配合飼料で追い込むと10カ月で楽に550キロにはなる、今日ほどサシの事は言わず肉量が多くて適当に脂が乗っていれば良い時代であったからあか牛はピッタリで袋井市場の銘柄品として名声を高め40年代の最盛期には♀を中心に年間3,000頭前後を購買するまでになり、その余勢が今も続いて熊本県産牛を飼っている次第である。



## あか牛によせて

元 鹿本畜産農業協同組合長 城 光宣

学校から軍隊へと、馬に学び馬と共に歩んだ15年間、戦後の昭和21年軍馬の補充部ともいえる郡馬匹組合に就職した。昭和23年農協法の制定により郡農会の畜産部を吸収合併し鹿本畜産農協が設立され家畜全般に亘る指導団体となった。

年々馬に代わり増頭するあか牛に対する知識は全くゼロで戸惑うばかりであった。老練な種雄牛管理者等から「馬がくるぞ」と陰口なり冗談を言われたもので、牛に対する指導者としての知識技能の取得には大変に苦労し努力もした。あか牛の登録研究会講習会、品評会等多くの技術研究の機会に恵まれ4～5年にして何とか畜主が認める畜産技術者として位置づけが出来たことは誠に幸いであった。

ここであか牛に就いて最も印象に残っている2、3の事について振り返ってみると、あか牛の改良は先ず種雄牛からと同志と図り、昭和35年11月種雄牛センターを設立することとした。当時、種雄牛管理者23名、種雄牛35頭、種雌牛約8千頭～9千頭が繋養されていた。参加者15名1人当たりの出資金12万円、借入金100万円、合計280万円で事業を推進した。個人有種雄牛を全廃し血統体型資質良好で産肉能力の優れた種雄牛を選抜繋養し、適正配合により産子の成績も概ね良好で初期の目的を達成し順調に事業を推進してきたが、昭和50年県に於いて種雄牛の集中管理を行うこととなったので15ヶ年に亘り行ってきた本事業を閉鎖した。

本事業により生産した種雄牛は数十頭となるが中でも次の牛は本県あか牛の基幹血統として現在も大いに貢献している。

高等登録11号「重玉号」鹿本郡鹿北町生産

高等登録57号「福竜号」鹿本郡鹿本町生産

高等登録58号「光武号」鹿本郡菊鹿町生産

本登録972号「栄豊号」鹿本郡鹿北町生産

ブロンズ像のモデルとなった「光重ET号」は「光武号」の孫牛となる。

県下各畜協も鹿本畜協の本事業をモデルとして次々と種雄牛センターを設立し、引いては県に於ける集中管理を容易にしたもので、鹿本種雄牛センターのあか牛の改良等に対する功績は誠に大きいものがあつたと自負している。

あか牛の肥育事業の第一歩は、昭和43年3月長崎県対馬に於いて三宅産業が行っていた杉山に於けるあか牛の放牧を鹿北町の最上町長を団長とする一行と共に研修したのが始まりである。

対馬はその76%が山地で66.5ヘクタールが山林又は原野で標高200メートル前後の山が連なっている。植林5、6年目の杉山にあか牛80頭が放牧され、山の下草を喰い、糞尿は肥料となり共々に順調な成績を修めていた。

早速、鹿北町茂田井部落（福岡県境の山に囲まれた20戸余りの小部落）の畜産家2名が対馬に習い約20ヘクタールの杉山に19頭の子牛を放牧した。約6カ月で山の下草を喰い尽くしたので山の中の仮畜舎で約5カ月間肥育して出荷したところ実にすばらしい成績を修めた。素牛価格9万円、飼料代及び諸経費5万円、売上価格51万8千円差引益金1頭当たり37万8千円、部落民も驚嘆し肥育事業への希望者続出、13名にてあか牛肥育組合を組織し今日まで36年間肥育事業の先達組合として定着、優秀な成績を修め現在に至っている。

本組合員が各種共進会共励会において受賞した成績は、農林水産大臣賞8回（7人）。中でも鹿本産あか牛24カ月、枝肉重量467、6キロ、枝肉K単価6、600円、売上代金3、805、500円の成績は将来も破られることはないだろう。

あか牛と共に歩んだ46年間、思い出の尽きることはないが、今回建設のあか牛ブロンズ像が戦後役肉用牛として農家を支え救ってくれたあか牛の貴重な象徴として永久に輝き続けることを願ってやまない。



## あか牛に思いを寄せて

宇城市小川町 辰井 千代勝  
節 子

昭和56年4月3日生まれの第五つるくさ号との出会いは、昭和56年12月の下益城家畜市場において、指定牛の産子として当時のセリ価格で百万円を超えて導入したことからです。その後の発育は良好で次世代を担う基礎雌牛として管理しておりました。

その産子で2産目の弦丸号（昭和59年11月17日生まれ、父第二光丸）を購入された同じ小川町の上田公一氏が肥育牛として昭和61年に開催された第9回熊本県肉畜共進会に出品され、当時の格付で極上となり、グランドチャンピオンの農林水産大臣賞を受賞され枝肉単価6,100円で販売されたと聞いております。

当時の畜産組合の技術員から聞いた話ですと肥育期間中は、群を抜いて飼養効率が良く肉牛として理想体型に仕上がったということでした。

今から思いますと光重ETの体型によく似ていたと思い出します。上田さんの肥育技術と牛の能力が今回建立されるスーパー種雄牛「光重ET」造成の始まりと言っても過言ではないと思います。

その後、第五つるくさ号から後継牛を残し、現在もその子孫を繁殖牛として我が家で管理しております。

第五つるくさ号は、熊本県のあか牛改良の為、熊本県農業研究センター畜産研究所でドナー牛として受精卵の採卵・移植に供された結果、光重ETが生産され、熊本県のあか牛の改良に多大な貢献をしたことは、私としましても非常に嬉しく牛飼いをしていく上で大きな励みになっております。

地元、下益城におきましては、第十光丸号が同じ小川町の藤坂さんによって生産されており増体及び肉質改善に素晴らしい貢献をしました。また、現在人気が集まっております第十六光重号も下益城郡砥用町（現美里町）の後藤弘幸さんによって生産されており、地域が一丸となり肉用牛の改良に邁進しております。今後も熊本県畜産農協城南支所の指導の元、肉用牛の改良増殖に努力してまいります。

私も高齢ながらその一役の一員として、あか牛繁殖雌牛6頭・育成牛1頭を家族全員で管理しております。

今回「あか牛ブロンズ像建立委員会」を中心に建立されますブロンズ像は、熊本県畜産関係者のシンボルとして建立されるとお聞きしております。今後の畜産振興方策を更にお願い申し上げますと共に「あか牛ブロンズ像」建立の関係者の方々と同意戴いた畜産農家の方々及び行政、関係団体各位に感謝申し上げ、お慶びの言葉に代えさせて戴きます。

# 御協賛芳名簿

(敬称略)

## 熊本県外・全国団体

### 協賛団体

(社) 全国肉用牛振興基金協会  
 (社) 畜産技術協会  
 (社) 日本食肉加工協会  
 (独) 農畜産業振興機構  
 (社) 日本畜産副産物協会  
 (財) 畜産環境整備機構  
 (社) 家畜改良事業団  
 (社) 中央畜産会  
 (社) 日本食肉協議会  
 (社) 日本草地畜産種子協会  
 全国畜産農業協同組合連合会  
 全国開拓農業協同組合連合会  
 (社) 日本あか牛登録協会  
 // 北海道支部  
 // 秋田県支部  
 // 長崎県支部  
 // 対馬支部  
 北海道あか牛振興協議会  
 道南肉牛振興協議会  
 池田町あか牛振興協議会  
 阿寒町肉牛生産同志会  
 青松牧野組合  
 秋田県畜産農業協同組合連合会  
 北秋田畜産農業協同組合  
 静岡県経済農業協同組合連合会  
 のぐち産業(株)  
 (株) ヨシオカ  
 (株) 伊藤ハム  
 サンキョーミート(株)  
 スターゼンミートグループ  
 (株) 日本カイハツミート  
 日本ハム(株)  
 福留ハム(株)  
 伊藤忠飼料(株)  
 日清丸紅飼料(株)  
 雪印種苗(株)  
 アグロメイト(株)  
 九州フタバ飼料  
 富士平工業(株)  
 カネコ種苗(株)  
 (株) 本多製作所  
 エスケー電気工業  
 ヤンマー農機九州  
 (株) キセキ九州  
 日本ニューホランド(株)  
 サージミヤワキ(株)  
 ナーリン(株)  
 明治製菓(株)  
 川崎三鷹製菓(株)  
 エム・エス・ケー農業機械(株)  
 協和発酵工業  
 三共ライフテック  
 (株) 微生物化学研究所

### 協賛個人

あいうえお順  
 相磯 和弘  
 青沼 明德  
 浅野九郎治  
 伊藤 剛嗣  
 宇田川光男  
 江口 和夫  
 大野 高志  
 小田 俊作  
 門谷 廣茂  
 金井 俊男  
 川村 良平  
 菊池 令  
 木下 良智  
 北池 隆  
 北澤 貴一  
 木村 和生  
 木村 英宗  
 木村 元治  
 小坂田 宏  
 境 政人  
 坂本 壽文  
 迫田 潔  
 佐藤 忠昭  
 塩田 忠  
 島田 英幸  
 白岩 俊英  
 真 一博  
 進木 隆信  
 菅谷 公平  
 鈴木 一則  
 鈴木 春雄  
 鈴木 稔  
 関村 静雄  
 藪田 明廣  
 高橋 博人  
 滝本 勇治  
 武岡 義武  
 竹原 誠  
 田上農夫男  
 田谷 昭  
 津曲 公夫  
 富田 育稔  
 中田 恵三  
 中山 文行  
 永村 武美  
 南波 利昭  
 仁熊 益美  
 野口 政志  
 能登 俊仁  
 橋本 幹雄  
 花立 信二  
 羽根田 實  
 林 稔久  
 比嘉 一也  
 引地 和明  
 菱沼 毅  
 姫田 尚  
 廣川 治

深水 弘文  
 藤岡 豊陽  
 藤田 陽偉  
 古沢 敏  
 分部喜久男  
 細見 隆夫  
 本郷 秀樹  
 前 理雄  
 松尾 昌一  
 藁田 純  
 宮田 茂  
 山内 健二  
 山本 公明  
 山本 達夫  
 横山 政廣

### 農畜産業振興機構

池内 豊  
 石井 清栄  
 石橋 隆  
 井田 俊二  
 井田 光之  
 伊藤 憲一  
 岡田 摩耶  
 加藤 信夫  
 神浦 清記  
 唐澤 哲也  
 菅野 聖治  
 糸川 俊一  
 幸田 太  
 後藤 由美  
 小林 宏三  
 塩島 勉  
 柴田美枝子  
 鈴木 清之  
 鈴木 伸英  
 瀬島 浩子  
 園部 容子  
 滝本 静男  
 武田 紀子  
 谷口 清  
 塚田 幸雄  
 土肥 俊彦  
 東郷 行雄  
 中出 繁  
 中川 哲  
 中島 祥雄  
 中野 貴史  
 野上ゆり子  
 野口 弘昭  
 野村 俊夫  
 長谷川 敦  
 林 義隆  
 樋口 英俊  
 平澤 正人  
 平野 昭  
 深澤 朋子  
 藤島 博康

藤野 哲也  
 舟田 信寿  
 堀口 明  
 南正覚康人  
 宮本 敏行  
 村尾 誠  
 安井 護  
 山口 勝朗  
 山崎 隆信  
 山田 理  
 米田 夷  
 和田 宗利  
 渡部 紀之

### 畜産技術協会

赤松 勇治  
 成田 基彦  
 西野 大樹  
 羽島 和吉  
 福川胎一郎  
 古川 良平  
 松川 正  
 山下 喜弘

### 大学関係

岡本 悟  
 古賀 脩  
 佐々木義之  
 原田 宏  
 広岡 博之

### 受精卵IG会

飯田 英明  
 板井 康明  
 恩田 明子  
 掛畑 寛之  
 風間 辰也  
 川本喜代子  
 神部 正路  
 斉藤 久明  
 坂本 勝  
 坂本 祐介  
 佐々木捷彦  
 佐藤 綾子  
 鈴木 裕  
 鈴木 達行  
 高橋啓治郎  
 高宮 武夫  
 土屋 秀樹  
 長岡 正二  
 新山 正隆  
 橋口佐智子  
 浜野 晴三  
 浜脇 淳  
 原田 芳龍  
 藤本 清則  
 松川 清  
 馬原 元生  
 宮村 元晴

守部 公博  
 安森 隆則  
 山本 沙和  
 吉岡 伸彦  
 吉川 基一  
 渡辺 佳恵

熊本県内

協賛団体

阿蘇市町村会  
 長陽村  
 大津町  
 菊陽町  
 矢部町  
 清和村  
 山鹿市（5市町）  
 植木町  
 美里町  
 菊池市（4市町）  
 合志町  
 西合志町  
 宇城市  
 熊本県農業協同組合中央会  
 熊本県経済農業協同組合連合会  
 熊本県信用農業協同組合連合会  
 全国共済農業協同組合連合会熊本県本部  
 熊本県厚生農業協同組合連合会  
 熊本県農業共済組合  
 熊本県畜産農業協同組合連合会  
 熊本県酪農業協同組合連合会  
 熊本県果実農業協同組合連合会  
 熊本県新拓農業協同組合  
 熊本県畜産農業協同組合  
 南阿蘇畜産農業協同組合  
 球磨畜産農業協同組合  
 （日本あか牛登録協会球磨支部）  
 天草畜産農業協同組合  
 熊本市農業協同組合  
 熊本市酪農業協同組合  
 阿蘇農業協同組合  
 玉名農業協同組合  
 上益城農業協同組合  
 （社）熊本県農業公社  
 （社）熊本県畜産協会  
 （社）熊本県獣医師会  
 （株）熊本畜産流通センター  
 （株）熊本蛋白ミール公社  
 日本あか牛登録協会熊本県支部  
 熊本県家畜人工授精師協会  
 熊本県農業者政治連盟  
 農林中央金庫熊本支店  
 九州東海大学  
 （財）化学及血清療法研究所  
 熊本鉱業（株）  
 内田陸運  
 丸義物流サービス  
 （株）ソフトビル  
 （株）岡田  
 西田精麦（株）  
 （有）ハンズ  
 （株）熊本クボタ  
 阿蘇町観光協会  
 阿蘇グリーンストック  
 熊本プリマ（株）  
 （株）豊住食肉  
 （株）フジチク  
 （株）杉本店  
 （株）カマチ（蒲池畜産）

（株）オオツカグループ  
 （有）松村畜産  
 （株）日本ビル管理  
 O A サプライズ  
 （株）アラカワ  
 葛城税理士事務所  
 キムチの里  
 （株）南陽建設

協賛個人

熊本県職員

あいうえお順

赤池 高則  
 赤崎 純司  
 浅香 純夫  
 朝倉 賢司  
 浅田 芳彦  
 浅野幸一郎  
 畦元 十  
 麻生 秀則  
 青木 和年  
 穴井 浩二  
 荒木 明信  
 荒木 亮  
 荒牧美善雄  
 有田 正善  
 井 克博  
 井 義実  
 飯田真志子  
 一法師義文  
 家入 誠二  
 池田 邦寛  
 池田 健三  
 池田 俊之  
 池本 安  
 石坂 浄治  
 石橋 誠  
 石原 健  
 伊豆 一郎  
 市川 妙子  
 市原素男  
 井手 澄男  
 伊藤 重和  
 稲生 邦博  
 稲田 司  
 稲葉 孝二  
 稲本 信一  
 猪野敬一郎  
 今田久仁生  
 岩下ルミ子  
 岩本美由紀  
 岩見 照也  
 植田 修二  
 上田 実  
 上野 治夫  
 上村 忠  
 牛島 欣二  
 牛島 啓勝  
 内田 栄二

内田 沙織  
 浦田 保憲  
 榎 純一  
 大石 二郎  
 大島 深  
 網田 昌信  
 大田黒光好  
 大塚 真史  
 緒方 秀一  
 緒方 倫夫  
 緒方 雄一  
 岡田 理花  
 奥田 剛士  
 小邦 朋子  
 奥村 誠一  
 緒田 敏律  
 鬼塚 龍一  
 小山 良一  
 笠田 雄司  
 加治屋 豊  
 角口 邦之  
 金田 洋  
 加納 義英  
 金澤 和夫  
 金島 佳典  
 兼武 誠之  
 紙屋 勝良  
 川口 茂樹  
 河野 雄二  
 川藤 定治  
 菊池 竜也  
 岸本 誠司  
 木村 稔  
 木村 勇人  
 清島 和生  
 清藤 浩文  
 釘本 昭彦  
 楠本 邦昭  
 久保 研一  
 窪 幸隆  
 栗崎 進一  
 黒柳 智樹  
 欽野 安弘  
 小池 康司  
 古閑 護博  
 小財 伸  
 児島 郁雄  
 児玉 邦秋  
 後藤健一郎  
 後藤 繁一  
 後藤 俊思  
 後藤洋次郎  
 古場 潤一  
 木庭 正光  
 小柳倫太郎  
 財津 正孝  
 齋藤 公治  
 斉藤 睦子  
 堺 一樹

酒井 彰一  
 坂川 明幸  
 坂口 悦郎  
 坂梨 二郎  
 坂梨 隆  
 酒瀬川雅士  
 坂本 英治  
 坂本 崇  
 崎村 武司  
 作田 一  
 佐藤 巖  
 佐藤 義廣  
 塩塚 勇樹  
 志賀みち子  
 篠原 公人  
 嶋村 政児  
 清水 繁樹  
 下門 久  
 下瀬喜久雄  
 下田敬太郎  
 下田二三子  
 下舞 禎子  
 下舞 睦哉  
 城 裕一  
 生村 晃子  
 菅原 竜哉  
 住尾 善彦  
 駿河 義美  
 瀬上 義喜  
 園田 誠  
 田浦 健界  
 高尾 英己  
 高木 公伸  
 高木 宏臣  
 高木 弘之  
 高木 三鈴  
 高木 庸  
 高田 寛行  
 高野 真  
 高野 敏則  
 高橋 明德  
 高橋 繁一郎  
 高宗 秀暁  
 高村 昭彦  
 高松 克行  
 高松 孝行  
 田川 博稔  
 田口耕太郎  
 武田 偉幸  
 竹本 裕子  
 竹盛 稔  
 田島 宏  
 田嶋 澄生  
 田代 憲臣  
 立場 久雄  
 辰本 富昭  
 田中 耕作  
 田中 博  
 田中 正美

田中 良典  
 谷口 憲治  
 谷口 雅律  
 谷山久美雄  
 田上俊太郎  
 塚原 敬典  
 恒松 正明  
 角田 邦之  
 津留 誠也  
 鶴田 克之  
 鶴田 勉  
 手嶋 英視  
 戸上 肇  
 時田 康広  
 徳永 武昭  
 富重 圭子  
 富重 悟  
 富田 逸郎  
 富安 忠光  
 中熊 公雄  
 中川 昭雄  
 中嶋 健次  
 中島 豊  
 長田 伸一  
 永田 雄治  
 中西 憲弘  
 中島 吉直  
 中村 伸二  
 中村 寿男  
 中村 秀朗  
 中山 善弘  
 中山 統雄  
 那須 利八  
 鳴川 成清  
 西川 公康  
 錦戸 至  
 西本 太  
 西山 英樹  
 野口 隆弘  
 野口 法子  
 野尻 建二  
 野田 昌男  
 野中 敏道  
 橋口 純也  
 長谷川法道  
 波多江 弘  
 波多野恭広  
 花谷 良助  
 馬場 功世  
 濱 清輝  
 林 茂勝  
 林 卓哉  
 林田 治郎  
 林田 奈津美  
 原野 幸子  
 春崎 聖一  
 板東 良明  
 東 昭  
 東 幹彦



樋口 俊二  
開 俊彦  
平島 利季  
平田 勝勅  
平野 孝昭  
平野 力久  
平山 忠一  
廣瀬 大造  
福島 理仁  
福田 忠孝  
福田 将史  
福永 逸子  
藤井 正範  
藤本 耕二  
藤本 孝幸  
藤山 秀隆  
不動 讓二  
古田 勝人  
古田 雅子  
堀 勇策  
堀口 太久  
本田 清裕  
本田 幸二  
本田 健志  
本田 民雄  
前田 和浩  
前田 亘  
舛岡 伸二  
益田 清三  
松尾 香織  
松尾 博幸  
松尾 佳典  
松岡 幸清  
松崎 雅浩  
松崎 和寛  
松寄 正治  
松下 勝行  
松下 啓二  
松田 道夫  
松本小市郎  
松本多恵子  
松本 達哉  
松本 道夫  
松原 堅護  
丸山 隆  
三島 和隆  
三角 尚登  
溝口 健一  
道下 殊代  
光永 良和  
美並 典彦  
宮川 清喜  
宮森 俊光  
村上 勲  
村上 尚徳  
村上 保幸  
村田 潤治  
村田 信一  
本村 松吾

縦木 裕子  
森 和彦  
森 将臣  
森崎 重治  
森下 久男  
守田 智  
守田 隆幸  
守田 寿隆  
社方 雅秋  
安田 宏正  
安武 誠至  
安武 秀貴  
彌富 道男  
柳田 義弘  
矢野 利彦  
山内 信雄  
山内 美弘  
山口 寛二  
山隈憲二郎  
山崎 圭介  
山下 浩次  
山下 久直  
山下 裕昭  
山田 英紀  
山田 茂喜  
山中 典和  
山野 輝紘  
山部 邦展  
山邊 経史  
山部 淳一  
山部 剛司  
山部 秀敏  
山本 秋夫  
山本 一登  
山本 紘一  
山本 弘規  
山室 聡  
横手健太郎  
横山 敏  
横山 聡一郎  
吉住 孝弘  
吉澤 和秀  
吉永 圭一  
吉村 淳子  
米原 英則  
脇坂 徹郎  
渡辺 章一  
渡辺 敏二  
渡辺 博之  
渡辺 充

熊本県元職員

あいうえお順

赤星 達正  
穴井 昭三  
石原 大介  
磯川 宗逸  
市原 勝則  
今村 昭壽

岩下 秀逸  
岩長 清二  
上田 一明  
有働 則治  
緒方 久徳  
緒方 国幸  
押川 文夫  
小山 巖  
甲斐 貞顕  
門岡 学  
神永 滋史  
川口 新二  
川島平八郎  
河山テルヨ  
倉岡 巖  
蔵原 寿子  
蔵原 久輝  
源川 己吉  
合志 重信  
古閑 行雄  
古閑 眞  
後藤 光雄  
木庭 研二  
小林 則勝  
小森田哲弥  
小森トモ子  
斉藤 和房  
斉藤 岑生  
坂口 信好  
作野 誠喜  
佐々木毅夫  
佐藤 強  
志垣 啓  
重森 正美  
下田 善之  
勝田 守博  
瀬口 幸介  
高木 弘隆  
高木 洋子  
高倉 朗  
高田 正民  
高野 恭一  
高山 一明  
田口 芳昭  
竹下 有之  
田中 洲子  
堤 ときえ  
出口 博明  
土肥 善和  
徳田 好子  
歳島 治明  
友栗 武盛  
豊田 満子  
内藤 大治  
永尾 一郎  
中尾 隆  
中川 亘  
永田 勝正  
永田 美水

高 欣彌  
林田 継雄  
原山 佑  
福田 博昭  
福田 良市  
堀 英臣  
前田 明男  
榊田 正和  
松下 義光  
松永 信正  
松永 正信  
松本 良一  
水島 隆  
水田ヤス子  
宮本 一男  
宮本 宣明  
宮本 義幸  
村上 逸雄  
村上 勝子  
本山久美子  
森 敏信  
森崎 征夫  
矢住 卓雄  
山田 弓生  
山西 昭治  
吉岡 重勝  
吉田 輝子  
吉村 征弥  
和田 正治

日本あか牛登録協会

省三 昭義  
松川 昭義  
児玉 一宏

熊本県畜産協会

村上 忠勝  
川津 時繁  
赤元 信晴  
生森 瑠美  
岩男みね子  
岩崎由里子  
岡本しのぶ  
春日 秀昭  
川崎 広通  
木山 由紀  
楠本 裕子  
栗原 洋子  
黒田 尚子  
古賀 豊  
齊藤 芙美枝  
椎葉ヒロミ  
茂田きよ子  
大城 哲男  
高村 英文  
田島 明  
津留 誠也  
富森 健助

中嶋恵利子  
永田 恵子  
東 雄二  
東 文江  
平田美保子  
福田 律子  
藤野 陽逸  
米川 康雄  
松村 祐子  
山本 愛  
若杉 保英

熊本県農業公社

中島 宣好  
坂本 陽子  
田代美智郎  
田代 洋介  
田所 啓介  
出口 雄一  
中寫 祥二  
原 慈宏  
古澤 睦男  
松嶋 孝明  
森山 一喜

熊本県畜産農業協同組合連合会

[役員]

府内 哲熊  
穴見 盛雄  
梅田 穰  
白石昭四郎  
高村 祝次  
中川 利美  
中道 健一  
原口 忠敬  
松田 則康  
三浦 哲  
小野 卓夫  
本田 正臣  
山崎 政治  
後藤 幸男  
徳丸 憲二

[職員]

赤星 和信  
井野 勲  
上村 直己  
内村 英一  
織方 誠也  
緒方 直浩  
篤海 貞親  
片岡 清顕  
河端 昇  
久佐賀 忠  
久保田 敦美  
倉田 稔弘  
小平 敬二

下田 八郎  
瀬上 正明  
高木 良美  
田中 尚子  
永井 拓朗  
永田 孝広  
西坂 茂樹  
西本 浩誠  
根本久美子  
林 勇  
本田 裕二  
宮園 正勝  
山本 道夫  
吉森 淳一  
米村 孝文  
渡辺真由美

熊本県畜産農業協同組合

[役員]

中川 利美  
原口 忠敬  
大野 秀人  
小野 卓夫  
志水 勝国  
松田 則康  
府内 哲熊  
村山 國廣  
末永 保之  
井 恒博  
永原 泰則

[職員]

池尻 尚光  
池田 春生  
池邊 洋行  
稻田 貴弘  
井野 輝明  
岩下 里美  
右今 龍子  
宇都宮 悠  
大塚 三鈴  
緒方 秀臣  
片山 康雄  
金子 美博  
久保田佳子  
藏原 孝廣  
城 啓親  
諏訪 智洋  
芹川 康之  
高井 隆次  
高本 裕己  
田中 康一  
田中 靖弘  
田中 豊  
徳永 忠昭  
徳永 ルミ  
富永 和徳  
永井 敏雄

中路 貴浩  
永田 仁恵  
丹部 貴之  
樋口 富雄  
福嶋 圭史  
藤原 啓二  
帆保由美子  
本田 英孝  
増永 昭彦  
松村 由美  
宮崎 寛和  
山崎 英美  
矢野 光男  
渡辺 誠一  
渡邊 良市

(城南支所)

緒方 聖也  
黒木 光雄  
土田はるな  
中石 浩美  
中村 正剛  
平岡 隆幸  
村山 康也

(城北支所)

上原 勇樹  
栗原 一豊  
徳永 理香  
野尻 三好  
松本 和幸

(中央支所)

佐々木一浩  
富永フミヨ  
中島 信夫  
中野 順子  
原 さゆり  
藤本 憲一  
宮崎 恒男  
宮村 聖相  
(阿蘇支所)  
赤尾 信隆  
岩下 典子  
岩本 実士  
坂本あずさ  
佐藤 秀晴  
鈴木由美子  
塚本 史弥  
宮崎 良三

[城南支所]

(下益城)

明石 良生  
赤星 正一  
有水 章  
飯田 照寛  
池上 和徳  
池田 道治  
石坂 実  
市川 天治  
伊藤 国広

井上 司  
今崎 繁  
今田 政行  
岩本 司  
上田 公一  
上村 等  
上村 光一  
上村 敏成  
内永 捷一  
浦田 一満  
大窪 時保  
大原 佳明  
緒方 春記  
押方 盛正  
北村 高秋  
北本 慶一  
木村 文孝  
隈部 義成  
倉岡 幸吉  
栗崎 義幸  
栗崎 榮生男  
欽柄 敬徳  
欽田 義勝  
後藤 弘幸  
酒井 博文  
坂口 光喜  
坂島 敏明  
坂本 忠昭  
澤上 稔  
澤村 秀雄  
沢本 保晴  
嶋津 重男  
白石 一吉  
園田 浩之  
園田 正美  
園田 龍一郎  
高田 良一  
宝田 正則  
竹口 則和  
田副 一年  
辰井 勝成  
谷口 幸徳  
谷田 孝敏  
田上 徳博  
田上 秀明  
近津 義秋  
塚原 昭二  
津田 国夫  
津田えり子  
土田 哲  
寺田 眞悟  
戸内 裕治  
戸浦 辰美  
戸上 洋  
徳永 光雄  
徳永 幸子  
仲島 敬申  
長嶺 智明  
中村 隆秋

中村 哲也  
成松 長利  
西坂 栄樹  
西田 誠也  
霍本 順也  
浜田 光則  
日永 照明  
平岡 勇  
平野巳之作  
廣田 基公  
福田 弘一  
福田 立美  
藤坂 郁夫  
藤田 英一  
藤田 繁雄  
藤田 三雄  
藤本 義雄  
船原 周一  
本田 修力  
本田 次人  
本田 正治  
本田 祐一  
益田 敏弘  
舛田 澄代  
増永 光喜  
舛本 輝美  
松岡 一則  
松岡 忠文  
松永 琢磨  
松永 光雄  
松村 新二  
松村 康生  
松本 修治  
松本 輝雄  
三浦 郁夫  
三浦 寅吉  
宮田 昭夫  
宮本 登  
村上 英憲  
元田 義重  
守田 実美  
山内 保幸  
山本 重利  
山本 幸人  
結城 幸人  
湯上 美香  
吉岡 孝治  
吉岡ちづる  
吉岡 徳男  
吉田 明美  
吉田 幹夫  
吉村 覚  
吉本 洋史  
吉本 洋一  
米田 逸雄  
米村 勇  
米山 恵一

(矢部)

阿部 主税  
荒木 茂治  
荒木 誠之  
荒木 俊行  
荒木 寿典  
飯星 新助  
飯星今朝則  
井上 正  
井上 親広  
岩崎 邦夫  
岩崎 鈴雄  
岩部富士雄  
上田 弘三  
上村 雄二  
梅田 十吾  
大倉 慎治  
大庫今朝則  
大原 誠  
大村 勝論  
大森 洋一  
小山 公聿  
柿田 邦夫  
金井 哲堅  
木下 敦  
木原 伸雄  
木原 信治  
草野 弥一  
草野 嘉朗  
楠村 国利  
国武 博章  
国武 成司  
黒田 良二  
小菌 孝徳  
後藤 幸誠  
坂本 純明  
阪本 義富  
坂本 正生  
佐藤美智太  
佐藤 家次  
佐野 重光  
佐野 天弥  
佐野 与真  
沢村 光徳  
下田 昭美  
下田 信二  
下田 孝文  
下山 国雄  
杉本 直道  
高野 精一  
高橋 博文  
高森 慎宣  
高森 雄二  
田中 久善  
田上 正照  
田村 祐元  
田村 等

戸高 一三	有富 護	小林 惠一	富田 利雄	堀江 精二
中川 博人	飯田 友信	小林 憲弥	富田 聖輝	前田 輝雄
中村 雄次	井口 定	小林 博文	富田 泰敏	牧野 孝一
西田 惠美子	池上 通博	小柳 親輔	中嶋 ミマル	牧野 正勝
西山 修一	池田 健二	近藤 孝行	永田 英誉	牧野 光弘
西山 隆博	池田 透留	斉藤 新一	永田 則義	松尾 二三生
橋本 昇栄	池田 博範	酒井 寿	永田 喜八郎	松田 篤
林 浩	池田 久仁友	境野 泰雄	長野 義一	松永 可成
原生 金人	石井 征郎	坂口 保志	中野 幸喜	松永 忠次郎
原田 諭	石阪 重人	坂口 龍一	中野 重徳	松村 輝雄
原田 悦稔	石貫 良一	坂田 義輝	永原 泰則	松村 光男
原田 豊房	石村 大輔	坂梨 進二	中山 賢二	松村 盛行
原田 泰聖	井手上 淳一	坂梨 宣任	中山 義男	松本 昭照
東 圭一	井手上 良誠	坂本 和徳	名越 文生	松本 高敏
広津 幹生	井上 時夫	坂本 隆幸	西田 照男	松本 紀生
藤川 一美	岩橋 正昭	坂本 勇夫	西田 敬一郎	松本 春幸
藤川 俊昭	岩本 光典	坂本 義敏	西村 二三夫	松本 幸春
藤川 正美	上田 初子	柴田 信隆	野添 盛久	松本 利一郎
藤川 洋海	上村 富士男	嶋田 曉生	野田 力	松森 尚道
藤崎 利夫	内ヶ島 勇真	島村 隆則	野中 匠	宮崎 直人
藤島 澄子	内村 順一	城 幸則	野中 晴光	村上 政
藤本 洋一	浦上 洋義	白木 一義	野満 英二	村上 勝徳
藤本 良一	衛藤 啓一	鈴木 直	野満 幸男	村上 国広
藤原 二義	大坂 義一	角田 一誠	野満 良二	村上 秀夫
藤原 良照	太田 黒鐵郎	角田 金嗣	林 一男	森 幸生
本田 則行	大塚 富隆	角田 静代	林田 輝幸	守川 朝幸
本田 博明	大淵 修	勢田 哲男	原 欽也	森川 昭一
本田 康夫	大淵 茂	芹川 孝文	原 昌也	森崎 秀雄
本田 龍子	大淵 誠也	芹川 孝文	原口 明晴	森山 文雄
増本 正	緒方 泉	平 昭男	原口 偉成	八並 裕一郎
松本 節男	岡田 海男	田内 新	原口 昭吉	藪内 戦一
三浦 尚登	小田 広光	田内 募	原口 伸二	藪内 隆晴
三河 義昭	片山 憲一	高井 良一	原口 忠敬	山口 公德
南野 英昭	片山 直広	高塚 正義	東 護	山口 賢正
源 孝行	片山 春孝	高塚 保臣	久富 耕介	山口 純一
宮崎 幸心	片山 幸浩	高橋 円喜	平井 明弘	横田 敬文
村山 健一	金森 久子	高見 春男	平井 邦治	横田 敏夫
村山 誠真	金光 裕彰	高村 浩司	平井 繁美	横田 文博
飯開 保人	蒲島 明雄	高本 幸博	平井 光臣	横田 政則
元田 覚	菊川 義人	田北 良一	平井 のぶえ	吉岡 勝義
森島 孝司	北原 保徳	竹下 晃	平木 巖	吉里 研
山下 隆生	北村 勝保	竹下 徹頭	平田 正人	吉里 直哉
山下 忠臣	木野 茂信	竹下 隆義	深川 義次	吉里 善房
山下 九州男	清田 正憲	竹原 政信	福田 重信	吉永 憲吾
山下 四十三	久保 敏晴	竹村 政信	福田 嘉明	吉村 昭浩
山村 恵一	蔵園 専十郎	多田 限亮	福永 寿彦	米岡 一誠
山村 孝明	桑原 公博	立野 正敏	福山 孝	若杉 勝治
吉田 武義	古閑 和男	田中 至誠	藤本 伸二	若杉 次人
吉田 三千夫	古閑 昭二	田中 三男	藤本 義博	若杉 幸生
吉見 弘則	古閑 新助	田中 善喜	藤本 義博	渡辺 幸一
吉見 泰治	古閑 文博	(有) 高森 農場	藤原 正俊	渡辺 将助
渡辺 和盛	古閑 義邦	多良 木 孝浩	渊 上 敦雄	(玉名)
渡辺 靖富	小材 資裕	垂水 尚登	古井 紀夫	荒木 康雄
渡辺 由美	小澄 義直	月足 泰幸	古川 和也	上田 弘
	木庭 勝代	手島 宏	古沢 輝章	上山 正之
	木庭 敬男	徳丸 昭弘	古田 磨	大城 戸 輝志
	木庭 信八	徳丸 清二	古家 千稔	大野 秀人
	木庭 徹成	徳丸 博康	星子 孝	坂井 一茂
	木庭 泰文	富田 茂	星乃 輝秀	坂本 和也

[城北支所]  
(鹿本)  
青木 邦貞  
新 洋一

杉本 俊夫  
高井 正之  
竹森 進  
西川 英雄  
西山 昭  
原口 文明  
藤本 敬吾  
藤本 純弘  
藤本 洋一  
前川 欣一  
牧下 二男  
松井 茂一郎

[中央支所]  
(熊本市)

上野 勝  
緒方 靖行  
加藤 靜徳  
古閑 憲一  
古閑 文雄  
高本 久雄  
田島 義勝  
立原 美隆  
谷富 茂  
堤 恭一  
富永 和隆  
中原 喜則  
中原 誠喜  
中村 清一  
西村 章  
松岡 明彦  
(有) 宮村牧場  
安武 幹記  
(東肥)

赤塚 一也  
安孫子 定蔵  
井戸 良正  
今村 博  
岩下 博美  
上田 俊秋  
江藤 国治  
衛藤 節男  
大塚 由啓  
大山 豊之  
緒方 恭三  
鹿子木 明  
鎌田 博昭  
河北 義則  
川俣 孝昭  
木野 則昭  
木村 誠也  
木村ツヤ子  
国武 崇昭  
熊野 義幸  
栗原 博文  
合志 一也  
後藤 和雄  
後藤 正春  
坂田 富榮

阪田 博敏  
坂本 孝一  
笹井 義人  
佐々木 英二  
藤 秀幸  
生山 欣一  
生山 公次  
生山 裕一  
相馬 徹昭  
(有) 相馬牧場  
高田 和幸  
中 繁  
竹代 一馬  
田中 淳一  
田中 香輝  
玉永 幸人  
千原 清蔵  
月尾 陽一  
永田 信登  
中野 彰一  
那須 文彰  
西本 政弘  
西本 安男  
西本 光敏  
橋本 安人  
橋本 健八  
東 清一  
東 止秀  
藤坂 伝  
府内 隆博  
府内 潔  
古莊 昭弘  
古庄 隆光  
古庄 龍馬  
古莊 則幸  
古庄 房年  
古庄 新次  
帆保 堅次  
本田 光晴  
本田 安市  
前田 義輝  
松田 光法  
松本 繁  
宮本 竜也  
安永 孝則  
矢野 次雄  
吉岡 龍一  
吉岡 寛  
(菊池)

池田 春生  
石渕きよ子  
今坂 正澄  
入江フミエ  
岩下 武春  
岩根 今朝利  
岩根 孝明  
岩根 孝嗣  
岩根 良一  
大塚 浩二

大塚 秀男  
岡崎 四郎  
緒方 維昭  
金子 美之  
川上 政信  
川上 宗弘  
川上 悦史  
木永 勝幸  
吉良 初次  
九重 末弘  
工藤 信夫  
小澄 徳奈美  
後藤 照秋  
斉藤 忠夫  
斉藤 徳昭  
坂本 重一  
坂本 栄樹  
坂本 重一  
坂本 忠治  
坂本 正光  
桜井 清登  
佐々木 一浩  
佐々木 宏  
佐藤 眞  
実田 牧夫  
柴田 正二  
末永 幸則  
高宮 隆俊  
高本 篤  
高本 義勝  
立山 輝夫  
谷川 邦利  
谷川 央一  
谷山 賢一  
塚本 重  
土山 興男  
出口 金生  
寺本 憲二  
土橋 道子  
富岡 フジエ  
富田 信幸  
外山 一雄  
鳥岡 信義  
中 一也  
中川 幸輝  
中川 雄一  
中島 重嗣  
中山 富佐男  
野口 節雄  
早川 倭幸  
東 憲昭  
平井イツ子  
平井 義之  
平島 慶臣  
福島 清雄  
福田 和弘  
外村 廣喜  
本田 洋昭  
本田 義治

本藤 誠一  
前田 逸男  
前田 奎志  
前田 隆敏  
松岡 親房  
松川 裕義  
松島 喜一  
松永 忠男  
松永 敬武  
松山 重明  
右田 喜一  
右田 松男  
宮川 照敏  
御山 浩三  
宮村 厚子  
宮村 力  
宮本 健吾  
宮本 星信  
武藤 信夫  
森 文子  
森山 昭二  
安武 幸一  
安武 孝子  
山下 武男  
山瀬 政敏  
吉井 数美  
吉岡 近  
吉岡 敏広  
渡辺 昇  
渡辺 末信

[阿蘇支所]

赤尾 三治  
赤尾 信一  
阿蘇品 豊  
天艸 晴夫  
荒井 富美夫  
荒木 義美  
井 健二  
井 悟  
井 住治  
井 威夫  
井 典治  
井 敏博  
井 富幸  
井 友秀  
井 信行  
井 広明  
井 文明  
井 雅隆  
井 康雄  
井 靖征  
井 行雄  
井 義仁  
井 義光  
家入 功  
家入 利徳  
家入 春雄  
家入 春喜

石田 嘉一  
石嶺 富三郎  
石本 健二  
板井 隆光  
市原 一誠  
市原 啓吉  
市原 袈喜  
市原 今朝徳  
市原 定義  
市原 重次  
市原 敏也  
市原 豊一  
市原 フキエ  
市原 宗隆  
市原 義実  
井手 明広  
井手 孝義  
伊藤 正信  
犬飼 秀綱  
井野 和義  
井野 征治  
井野 則男  
井野 道徳  
井上 繁喜  
今井 健一  
井山 彰  
岩下 明  
岩下 茂子  
岩下 次男  
岩下 常俊  
岩下 恒也  
岩下 照登  
岩下 英文  
岩下 導雄  
岩下 宗洋  
岩下 雄治  
岩下 幸治  
岩下 幸元  
岩下 義春  
岩下 正治  
岩瀬 与  
岩瀬 新次  
岩瀬 善喜  
岩永 啓三  
岩永 照雄  
岩本 秀美  
上野 初子  
上村 恵  
内田 孝昭  
内牧 光也  
宇野 元巳  
宇野 義章  
梅井 浩二  
梅野 久仁也  
江入 孝幸  
江入 敏雄  
江入 幸和  
江藤 哲也  
江藤 正士

江藤 義幸  
江良 一郎  
大倉 輝雄  
大塚 忠雄  
大塚 幸矢  
大平 京一  
小野 秋義  
小山 裕康  
甲斐 一郎  
甲斐 誠一  
甲斐 隆憲  
甲斐 鶴義  
甲斐 子一  
甲斐 深  
甲斐 政勝  
甲斐 義則  
梶原 房男  
加藤 雄二  
鎌倉 善光  
狩尾 牧場  
川嶋 亮喜  
河島 浩雪  
川瀬 義輝  
河瀬 真喜夫  
河野 博幸  
河野 フヨ  
河原 義朝  
菊池 光春  
北里 孝博  
草尾 正行  
草野 昇三  
工藤 征士  
工藤 一雄  
工藤 健童  
工藤 忠信  
工藤 富之  
工藤 秀則  
工藤 美佐子  
工藤 幸紀  
倉岡 未成  
倉岡 満雄  
蔵原 和久  
蔵原 孝光  
蔵原 慎雄  
蔵原 裕子  
蔵原 吉行  
蔵原 初  
蔵本 悦治  
栗明 良一  
黒田 美咲  
古閑 真由美  
古閑 与一  
古閑 範浩  
小坂 今朝  
五嶋 一俊  
後藤 一盛  
五嶋 誠次  
後藤 千年  
後藤 二夫

後藤 哲雄  
後藤 直久  
後藤 倫弘  
後藤 義雄  
後藤 律子  
小西 孝浩  
小西 春人  
古吉 久一  
佐伯 正幸  
佐伯 光治  
齊藤 義満  
佐伯 光則  
酒井 政幸  
坂口 静義  
坂梨 右近  
坂梨 和男  
坂梨 清人  
坂梨 哲郎  
坂梨 水門  
坂本 憲一  
坂本 房友  
笹原 憲治  
笹原 実  
笹原 範治  
笹原 瑞徳  
佐藤 鉄博  
佐藤 俊三  
佐藤 文男  
佐藤 義治  
佐藤 良一  
佐渡 正美  
志賀 泰次  
志賀 輝良  
篠田 博成  
嶋川 哲司  
嶋野 迪  
嶋野 洋資  
下城 秀男  
下田 義幸  
下村 善計  
白石 元興  
陣野 正行  
菅 正一  
杉谷 隆徳  
杉本 進  
鈴木 郁生  
添田 孝吉  
園田 今朝  
園田 進一  
園田 盡  
高木 和夫  
高木 照一  
高木 徳一  
高木 憲光  
高木 満浩  
高橋 エイコ  
高橋 一郎  
高橋 修  
高橋 誠治

高橋 達雄  
高橋 忠治  
高見 健次  
高宮 浩一  
田島 今朝  
田島 信  
田島 忠実  
立石 亀八  
立石 秀光  
立石 善邦  
田中 歩  
田中 幸博  
田中 誠志  
田上 稔  
田上 一雄  
筑紫 ヨナ子  
筑紫 哲徳  
塚本 忠  
塚本 時正  
寺川 節夫  
徳永 嘉富  
中川 力  
中川 順雄  
中島 一雄  
中嶋 忠市  
中嶋 年治  
中嶋 博幸  
長田 勲  
永富 久雄  
永富 浩司  
永野 成男  
中村 勝秋  
中村 太助  
中村 辰司  
奈須 昭博  
榎木 野高  
成瀬 信朝  
西 忠義  
西 由喜美  
西岡 英次  
西岡 春光  
西林 登志昭  
西村 和博  
西村 直樹  
西村 政司  
西村 勇輝  
仁田 水孝  
野上 信隆  
野尻 孝喜  
橋本 堅  
波多野 継子  
浜村 厚志  
早瀬 尚光  
春山 厚雄  
春山 毅  
飛田 和重  
飛田 秀和  
平岡 正雄  
広石 勝之  
広瀬 与市

藤木 良平  
藤原 忠良  
古木 幸人  
古木 幸治  
古木 陽一  
古澤 清行  
古沢 志喜男  
古澤 二男  
古澤 康男  
古澤 安則  
本田 小一  
本田 二男  
本田 藤夫  
本田 義武  
前田 利袈  
松永 大児  
松永 時宜  
松野 正美  
松本 清高  
真鍋 光伸  
宮本 陽一  
宮本 義正  
村上 幹雄  
村上 義輝  
村山 啓助  
村山 助雄  
村山 吉近  
室 英司  
森 健治  
森 テル子  
森 今朝  
森 誠次  
森山 幸義  
八木 和博  
山内 幸一  
山口 勇一  
山口 則光  
山口 今朝行  
山口 雅章  
山口 正澄  
山口 恒亀  
山口 光浩  
山部 英治  
山部 佳剛  
山部 啓二  
山部 今朝範  
山部 太村  
山部 清次  
山本 喜一  
山本 九州男  
山本 三三  
山本 敏文  
山本 平八郎  
幸 ちえ子  
柚上 広昭  
吉田 満雄  
若宮 正俊  
和田 次則  
和田 正一

和田 優助  
渡辺 和広  
渡辺 和也  
渡辺 今朝照  
渡邊 今朝治  
渡辺 千良  
渡辺 靖昭

南阿蘇畜産農業  
協同組合

[高森支部]  
(高森)

杉田 年徳  
田上 浩尚  
田上 誠一  
田上 求  
本田 秀喜  
本田 信一郎  
本三 繁孝  
本三 逸雄  
本三 義高  
松尾 治実  
中川 浩志  
中川 誠雄  
谷川 春水  
後藤 末義  
岩下 利晴  
岩下 信雄  
岩下 幸子  
岩下 巖  
岩下 幸一  
相馬 敬貴  
岩下 克尚  
津留 桂司  
津留 元親  
塚本 文喜  
中川 愛江  
塚本 昭男  
宮本 徳男  
(色見)  
後藤 浩一  
後藤 和三  
後藤 保幸  
本田 清二  
高倉 清孝  
榎木 野孝一  
後藤 則和  
後藤 昭博  
荒牧 信也  
荒牧 祝一  
勝木 忠男  
安片 英人  
工藤 勝広  
工藤 照幸  
岩下 博昭  
岩下 裕二  
岩下 公幸  
岩下 良治

本田 勝幸  
安方 さよ  
安方 秋孝  
宇藤加代子  
児玉 福男  
山室 真琴  
山室 昭一  
宇藤 一郎  
山田 光士  
宇藤 信喜  
宇藤 元喜  
宇藤 将敏  
山室 説生  
住吉 中  
住吉 呷光  
住吉 栄男  
住吉 勝也  
住吉 りつ子  
(草部)  
安在 健男  
甲斐 隆  
岡本 和雄  
佐藤 民義  
古庄 文義  
小島 孝生  
川部 七生  
大内 奉文  
佐藤 敬雄  
川部 喜一  
佐藤 秀武  
山田 美津子  
熊谷 二保  
芹口 秀吉  
富永 正利  
工藤 祝男  
草村 利民  
工藤 清男  
佐藤 一利  
桐原 一信  
工藤 勲  
瀬井 一  
阿南 捷光  
阿南 義蔵  
阿南 時治  
阿南 則一  
児玉 吉広  
足立 秀美  
工藤 安夫  
工藤 智  
穴見 広近  
工藤 明善  
工藤 隆  
甲斐 成美  
赤木 哲政  
鶴林 憲男  
岡部 義武  
矢津田 郭富  
増田 喜久吉  
矢津田 剛

矢津田クミ子  
今村 助男  
本田 道広  
矢津田勇次  
小糸 善康  
甲斐 英敏  
甲斐 睦夫  
本田 角義雄  
本田 秀雄  
本田 栄二  
本田 清徳  
井上 英雄  
本田 五男  
井上 誠広  
甲斐 広国  
二子石富士夫  
(野尻)  
野尻 善人  
野尻 健一  
甲斐 峰雄  
野尻 英夫  
興梠ミヨ子  
佐藤 敏美  
瀬井たき子  
古沢 慶男  
草村 秀章  
城井 若生  
瀬井スキ子  
栗焼 長命  
栗焼 三千生  
古沢 建生  
古沢 信幸  
瀬井 弘一  
甲斐ミソヨ  
戸高 秋男  
児玉 国広  
後藤 美行  
宮本 春美  
首藤 金光  
真井 正次  
岩下 一夫  
鶴林 孝夫  
鶴林 豊成  
白石 福男  
白石 吉勝  
白石 年男  
白石 豊  
白石 哲雄  
白石 博昭  
白石 政雄  
白石 徳男  
岩下あや子  
吉良山友二  
吉良山一幸  
野尻 進  
[蘇陽支部]  
(柏)  
佐藤 陵治

佐藤 金一  
田上 善二郎  
佐藤 瀧子  
佐藤久美男  
佐藤 一誠  
飯星 敏  
小崎 恵子  
有働 法男  
佐藤 一男  
有働 広  
山辺 常勝  
山辺 達也  
山辺 真治  
山辺 正光  
山辺 始寿  
興梠 修一  
渡辺 和幸  
江藤 親喜  
後藤 巧  
有働 純一  
遠山 市男  
後藤いま子  
江藤 清二  
有働 和夫  
工藤 光盛  
工藤千代美  
工藤 元子  
工藤 昌道  
工藤 儀一  
工藤 才豊  
後藤 勝男  
佐藤 則光  
春日 学  
春日 五三  
春木 重雄  
田上都喜雄  
佐藤 啓夫  
芹口 初美  
芹口 剛  
大内田菊男  
甲斐 一子  
甲斐 安敬  
本田 豊  
三重野美智代  
後藤 恵一  
山中 昇  
甲斐ハツエ  
佐藤 秀夫  
後藤今朝一  
木実 義雄  
木実 菊男  
木実 鎮  
木実 宗康  
佐藤 一夫  
佐藤テイ子  
佐藤つまえ  
栗屋 正治  
田上 満則  
後藤有志男

右働 邦俊  
甲斐 良蔵  
栗屋 克範  
穴見 元子  
穴見 鉄雄  
工藤 呷義  
奈須千恵子  
佐渡 恵雄  
平木 隆二  
富永 武功  
後藤 朝則  
後藤 勇幸  
有働 光揮  
有働 登  
有働 誠志  
有働 福男  
有働美津男  
古庄 春夫  
古庄 正一  
奈須 宗重  
(菅尾)  
小堀 俊憲  
上野 秀喜  
坂本 孝真  
宮川 英明  
田上 憲靖  
本田ツユ子  
(馬見原)  
長谷野鶴喜  
長谷野人美  
清水 孝省  
甲斐 忠  
堀 秀男  
甲斐 蔵  
甲斐 信一  
片倉 長久  
山口 末利  
栗屋 孝  
栗屋 誉光  
栗屋 力也  
山口 牧人  
栗屋 幸三  
山口 隆介  
中矢美記男  
[白水支部]  
市原 宗寿  
渡辺 広親  
渡辺 近義  
後藤 慶蔵  
後藤 昭雄  
本田 武喜  
二子石敬二  
木村 示  
光木 邦久  
大津 年行  
木村 辻子  
小出つぎえ  
小出 篤雄

笠 正直  
後藤 秀和  
後藤 和己  
山室 健蔵  
後藤 淳美  
後藤 次男  
後藤 正男  
後藤 正和  
工藤 真一  
後藤 晴雄  
後藤 節吾  
山室ヨシコ  
加藤今朝泰  
長岡 精治  
田上 房夫  
田上 丸喜  
田上 修一  
高宮 孝男  
後藤 達雄  
島田 和久  
後藤 喜好  
竹中 俊一  
嶋田 安行之  
梅田 信之  
興梠 義清  
梅田くに子  
積 三学  
後藤 英男  
積 幸男  
林田ツエ子  
岩下 義昭  
岩下サワ子  
藤川 一士  
吉田 長男  
福本 一行  
中川 節雄  
藤川ミチ子  
中川 澄雄  
中川 勝幸  
福本すみ子  
福本佐代子  
藤川 泰登  
福本 節男  
福本 恵美子  
藤川 建  
福本 悦子  
福本 清  
松岡 実  
倉岡 貞信  
大津 洋二  
大津 直幸  
今村 美行  
大津 誠士  
小林 延子  
中村 浩文  
松岡 喜栄  
松岡 浩二  
中村 優二  
高宮 やす代

長尾 睦雄  
松岡 栄記  
松岡 日出男  
松岡 幸俊  
田上 昭則  
荒牧 秀敏  
荒牧 節也  
郷 利治  
渡辺 智春  
高宮 正敏  
後藤 サユリ  
林 キヌ子  
峯 敬止  
倉原 精士  
松崎 為士  
藤本 一行  
甲斐 孝行  
荒牧 重徳  
荒牧 孝憲  
宇藤 欣喜  
藤本 一行  
荒牧 トミ子  
大塚 嘉二  
野口 清久  
大塚 由成  
大塚 隆徳  
大塚 正治  
渡辺 豊次  
下田 茂  
大塚 浩一  
岡村 良子  
佐藤 春敏  
住吉 戦勝  
渡辺 代継  
渡辺 イツ子  
渡辺 静雄  
大塚 恵志  
後藤 幸  
甲斐 純一  
佐竹 哲也  
古沢 満州男  
足立 咲子  
甲斐 節雄  
緒方 信雄  
後藤 澄雄  
緒方 真治  
緒方 廣士  
小林 公子  
笠野 生子  
山戸 直  
後藤 克征  
後藤 貞徳  
高木 政夫  
高木 二三男  
高木 敬雄  
吉田 近男  
中村 七生喜  
松本 達人  
大津 励志

[久木野支部]

飯法師 武男  
原田 英士  
長崎 幸徳  
渡辺 勇雄  
村上 国二  
渡辺 龍喜  
古沢 誠史  
下原 三男  
加々山 定雄  
今村 ふよ子  
高宮 清一郎  
藤崎 友久  
脇坂 春喜  
後藤 常雄  
今村 浩二  
峯 栄二  
浅尾 継也  
浅尾 正純  
藤崎 晃汎  
藤崎 荘一  
荒牧 はつみ  
今村 良助  
古庄 徳秀  
岩下 信介  
浅尾 光博  
浅尾 鎮也  
今村 隆  
今村 年昭  
今村 秀也  
後藤 辰次  
浅尾 大蔵  
栃原 久十男  
古沢 博保  
今村 今夫  
今村 亮子  
藤本 真澄  
今村 満  
栃原 薫  
今村 浩征  
今村 守  
今村 建一  
今村 勇一  
古沢 洋介  
古沢 宗夫  
今村 孝典  
今村 杉也  
今村 鶴美  
今村 生  
今村 久也  
今村 武博  
古沢 博幸  
大津 久雄  
小堀 末弘  
阪田 健男  
西岡 秀也

[長陽支部]

伊藤 良智

下田 忠治  
渡辺 二三  
渡辺 晃  
渡辺 英幸  
村上 克也  
村上 俊明  
市原 恵一  
松本 浩志  
渡辺 芳朗  
田中 敏夫  
下田 正博  
犬塚 賢治  
興梠 木助  
今村 竹久  
村上 治子  
後藤 蓉子  
村上 喜雄  
川崎 昭夫  
川崎 薫  
今村 一郎  
笠野 松喜  
古庄 セイ子  
長野 文明  
長野 国勝  
長野 五十六  
長野 博文  
長野 ヤス子  
田尻 静男  
長野 国義  
長野 統  
長野 実常  
長野 幸雄  
山口 達志  
藤原 清孝  
藤原 イチ子  
飛瀬 不二夫  
飛瀬 アツ子  
松岡 英幸  
長野 雪子  
藤原 エイ子  
長野 恵蔵  
渡辺 スミ子  
渡辺 和徳  
藤原 節美  
藤本 久雄  
北里 勝利  
野田 英俊  
野田 博文  
市原 松子  
長野 ムツ子  
渡辺 今朝勝  
長野 元康  
藤本 近吉  
藤原 光徳  
藤原 敏行  
藤本 賢一  
藤本 キヨ子  
増田 到誠  
古沢 利行

古沢 英治  
古沢 勝也  
西村 征士  
塚元 秀典  
古庄 憲徳  
古庄 正治  
宮崎 明  
宮崎 宗成  
西村 光行  
西村 貞臣  
九州 東海大学  
井川 睦男  
上村 孝輝  
丸野 正広  
中尾 雄二  
山内 博史  
中村 義生  
本郷 征武  
藤本 工  
笠野 年久  
長野 ツヤ  
井川 亨  
ピリオド 一  
上村 征二  
塚元 伸一郎  
木之内 均

[西原支部]

桂 春喜  
中村 三千文  
野田 英一  
高木 雅之  
山口 嘉顕  
坂梨 豊  
日置 満則  
渡辺 一喜  
坂田 一  
高橋 啓  
古庄 礼子  
高本 スエヲ  
東 武  
阪本 兼一  
東 敏寛  
坂本 良光  
坂本 浩昭  
中村 芳彦  
山本 秀典  
野口 政信  
藤川 光一  
秋吉 啓子  
秋吉 一男  
野口 利勝  
山口 敬吉  
丹波 一行  
丹波 久美代  
首藤 幸男  
日置 一誠  
山本 和彦  
吉住 義信

今村 秋敏  
広島 隆幸  
松岡 敏則  
林田 直行  
[錦野支部]  
高橋 国利  
門岡 力計  
桐原 昌昭  
国武 昌昭  
桐原 一行  
曾我 精一  
桐原 新一  
曾我 元則  
錦野 貴俊  
平野 浩徳  
東 延生  
四郎 丸凌子  
平山 一代  
赤星 典太  
宮前 公俊  
中山 秀俊  
内田 繁信  
田中 義広  
宮本 広明  
田上 稔  
光永 憲夫  
中栗 マコト  
東 光志  
赤星 幸喜

[管外]  
(波野)

赤尾 今朝則  
瀬井 忠行  
甲斐 信吾  
岩下 和幸  
(一の宮)  
吉岡 ツタ子  
園田 ケサコ

[肥育者]

荒牧 弘幸 (高森)  
津留 孝二 (高森)  
中川 昭子 (高森)  
後藤 春雄 (白水)  
藤原 健志 (久木野)  
東 洋光 (西原)  
東 義秋 (西原)

[交雑・酪農]

片山 国孝 (白水)  
中川 勝義 (白水)  
藤川 平 (白水)  
宇藤 文三 (高森)  
大塚 義治 (長陽)

[獣医師]

穴見 三生  
岩代 尚行

荒牧 裕治  
山本 義信

[授精師]

安方 広光  
本田 英明  
後藤 孝俊  
笠 和清  
曾我 一弘

[支部長]

住吉 平男 (高森)  
草村 征憲 (野尻)  
工藤 信行 (蘇陽)  
後藤 安弘 (白水)  
今村 健正 (久木野)  
中尾 雄二 (長陽)  
内田 稔 (西原)  
東 弘仁 (錦野)

[支部職員]

今村 英喜 (高森)  
工藤 正成 (蘇陽)  
中村 優二 (白水)  
藤崎 秀也 (久木野)  
村上 敏昭 (長陽)  
東田 正幸 (西原)  
国武 昌昭 (錦野)

[町村関係]

岩下 光廣 (高森)  
白石 孝二 (高森)  
田中 要 (山都)  
有働 頼貴 (山都)  
田上 栄喜 (南阿蘇)  
大山 雄基 (南阿蘇)  
曾我 敏秀 (西原)  
坂本 孝幸 (西原)

[元役職員]

今村 林 (故)  
小屋迫 一 (故)  
今村 来 (故)  
甲斐 勝己  
児玉 久人  
岡村 源満 (故)  
草部 二雄 (故)  
後藤 菊三  
谷川 清行 (故)  
今村 季継  
安方 三治 (故)  
佐伯 哲男 (故)  
原 巖 (故)  
山室 忍  
小林 守男  
今村 祐助  
安方 司  
大津 建治  
三森 俊昭

高木 弘隆  
栃原 薫  
後藤 幸男  
荒牧 末美  
後藤 富男  
相良 半造

[役員]

本田 逸雄 (高森)  
松尾 治実 (高森)  
宇藤 仁 (高森)  
岡本 和雄 (高森)  
草村 秀章 (高森)  
今村 助男 (高森)  
今村 次春 (蘇陽)  
栗屋 誉光 (蘇陽)  
飯星 敏 (蘇陽)  
後藤 晴雄 (白水)  
岡村宗十四 (白水)  
今村 格亮 (久木野)  
塚元 秀典 (長陽)  
長野 国勝 (長陽)  
林田 直行 (西原)  
坂田 一 (西原)  
東 延生 (錦野)

[職員]

梅田 政之  
山辺 寛美  
今村 竜喜  
松岡 俊博  
矢津田博文  
曾我 武史  
工藤 麻依  
緒方 弘美  
桐原 房子  
都 香代

球磨畜産農業  
協同組合

[職員]

深水 孝範  
谷川 貞義  
深水 勇治  
高村 守衛  
中村 幸善  
大西 隆志  
桑原 淳一  
星原 雅子

熊本市農業協  
同組合

古谷 博信  
田尻 修  
梅田 一友  
田尻 實

熊本市酪農業  
協同組合

本田 正臣  
安孫子定蔵  
井芹 睦男  
井芹 康弘  
大塚 昇  
工藤 秀雄  
古閑 隆一  
小平 利徳  
酒井 弘美  
佐藤 公生  
佐藤 利昭  
生山 正博  
相馬 安伸  
高木 三昭  
田中 一好  
田中 淳一  
寺田 光男  
豊住 充彦  
豊田 茂  
古田健太郎  
松岡 隆志  
丸林 栄喜  
三島 英治  
南 俊也  
吉川 照幸  
笠 一博  
笠 剛

玉名農業協  
同組合

荒木 久雄  
荒木裕一朗  
石原二千郎  
一丸 登  
井上 繁孝  
牛島 孝典  
浦部 武士  
太田 次孝  
釘崎 輝義  
倉光 薫  
坂本 伸治  
猿渡 眞一  
杉本 光子  
津留 敬吾  
津留久美勝  
友口 慶児  
野口 征義  
原口 恒一  
平川 春吉  
福山 嘉人  
福山 隆盛  
藤原 勝喜  
松尾 恵助  
松本 達男  
豆塚 勇  
森 武人  
山崎 元光

山住 勝博  
[職員]

徳山 一英  
前川 吉宏  
打越 辰美  
深浦 泰文

上益城農業  
協同組合

あいうえお順

荒木 崇  
一村 吉勝  
上坂 博文  
大隈 護  
大森 隆盛  
梶原 光典  
川野 宣幸  
友田 功  
中田 隆  
中村 強  
錦 照也  
浜田 徹弘  
広田 洋一  
福永 精一  
本田 剛  
前田 安則  
増岡 幸雄  
増岡 義治  
宮川 安明  
森口 政人  
森田 義信  
山下 敏武  
山本 幹雄  
吉住 明宏  
米満 謙二

阿蘇農業協同  
組合小国郷  
中央支所

あいうえお順

[職員]

秋吉 武臣  
秋吉 芳朗  
穴井 和代  
穴井 末男  
穴井 貴光  
穴井チヅ子  
穴井千代美  
穴見 優子  
飯沼 由彦  
行部 浩  
今村 英助  
宇野 高夫  
梅木 望  
梅木 賢司  
梅木 利子  
梅木 裕天  
大塚 孝政  
大塚 嘉久

大塚 雷作  
小野 泰嗣  
金丸 美和  
河津 篤  
河津 浩  
河津 剛成  
河津 英幸  
河津マサ子  
河津美智枝  
河津 義明  
北 淑子  
北里 雄  
北里 丈夫  
北里美由紀  
北里 幸人  
北野みちよ  
清孝 直樹  
後藤 澄男  
坂田三喜男  
佐藤 康  
佐藤 清一  
佐藤 寿則  
佐藤 文則  
佐藤 満男  
佐藤 光紀  
佐藤 嘉孝  
芝美 紀子  
渋谷 淳  
杉谷 里香  
杉田 芳信  
杉野裕一郎  
杉野 優子  
高野 賢輔  
宅野 幸大  
宅野 正美  
宅野 禎也  
出口 創平  
藤堂 秀美  
時松 一幸  
時松 誠也  
長野 哲也  
永野 裕美  
永野 幸雄  
長谷部一成  
長谷部ケイ子  
長谷部博一  
浜崎 晃敬  
原田 泰平  
原部真寿美  
原山 和親  
日隈 淳  
久野 敏和  
久野 英治  
日田ヒロ子  
平川ひとみ  
三苦 真弓  
宮崎 哲也  
宮崎 智和  
宮本 勝代



室原 竜巳  
室原 ミサ子  
室原 良子  
森 英三  
森本 恵美子  
矢羽田 浩史  
鏈水 雅美  
鏈水 祐司  
吉野 美鈴  
綿貫 純也

[組合員]

秋吉 英文  
秋吉 一孝  
秋吉 克幸  
秋吉 泰宏  
秋吉 陽三  
麻生 和穂  
麻生 和市  
麻生 剋博  
麻生 隆行  
麻生 秀孝  
麻生 博之  
穴井 茂喜  
穴井 千年  
穴井 孝孝  
穴井 秀憲  
穴井 美季  
穴井 三男  
安藤 富男  
井 衆一  
井 松男  
井 政照  
池部 栄男  
石松 公成  
石松 丈多郎  
石松 英雄  
石松 雄平  
行部 盛雄  
磯崎 奉美  
市原 幸生  
井野 進  
井野 達徳  
井野 祐蔵  
岩本 新一  
上野 龍也  
宇都宮 昭三  
宇都宮 誠也  
宇都宮 近男  
宇都宮 司  
宇都宮 良治  
右藤 克彦  
梅木 計美  
梅木 重利  
梅木 博文  
太田 計早義  
大塚 輝幸  
大塚 つる子  
大塚 むつ子

大森 秀信  
小田原 孝  
小田原 初次  
小原田 信浩  
加藤 宏文  
辛島 文昭  
河津 五喜  
河津 克博  
河津 国生  
河津 哲文  
河津 利明  
河津 俊弘  
河津 典夫  
河津 初義  
河津 己執  
河津 三千年  
北 栄次郎  
北里 亀義  
北里 賢治  
北里 幸一  
北里 成生  
城戸 文夫  
後藤 信介  
財津 寿俊  
佐藤 国義  
佐藤 建志  
佐藤 瀬市  
佐藤 隆秀  
佐藤 正  
佐藤 忠美  
佐藤 亨  
佐藤 友美  
佐藤 初美  
佐藤 はる子  
佐藤 文博  
佐藤 昌利  
佐藤 幸春  
柴田 幸人  
渋谷 利洋  
渋谷 睦雄  
清永 孝一  
下城 淳司  
菅 三明  
高村 夏規  
高村 芳広  
高野 敬一  
田北 輝明  
田北 敏明  
武田 公男  
武田 末勝  
武田 時吉  
武田 義男  
田原 隆  
俵 金夫  
手嶋 照也  
時松 拓三  
時松 唯一  
時松 達也  
永江 一雄

中島 一喜  
仁田 博文  
橋本 繁治  
橋本 新吾  
橋本 泰蔵  
原山 征夫  
原山 寅雄  
日隈 国晃  
日隈 好之  
久綱 一憲  
日野 金利  
宮崎 誠也  
宮崎 徳雄  
宮崎 良久  
宗像 信雄  
村上 和広  
村上 邦義  
村上 貴幸  
村上 秀訓  
矢野 博幸  
渡辺 実

畜産団体元  
役員

石渕 寛  
伊藤 玲二  
江東 厚子  
甲斐 栄賀  
工藤 四朗  
桑島 幸介  
鹿子木 浩  
榊 みどり  
佐野 天勇  
城 光宣  
瀬口 義介  
瀬口 ミス子  
竹原 義朗  
田代 幸助  
田上 昭信  
千原 静也  
土屋 侑一  
荅 良輔  
永里 哲光  
西岡 實  
野田 眞良  
福山 文男  
堀田 頼之  
本川 格  
安方 司  
吉永 民雄

大学関係

飛岡 久弥  
信國 喜八郎

受精卵 I G会

荒木 伸一

荒木 武紀  
石澤 守  
泉 智子  
井手 敏江  
岩木 久美  
岩橋 隆志  
網田 昌信  
大倉 昭信  
緒方 寛  
小城 学  
川邊 邦彦  
川邊 久浩  
栗原 清行  
後藤 孝一  
坂本 徹郎  
笹森 淳一  
佐藤 敬明  
佐藤 文代  
四宮 将和  
四宮 義和  
嶋野 洋範  
小邦 朋子  
杉江 均  
住尾 善彦  
高橋 繁一郎  
高比良 晶寛  
谷口 雅律  
田屋 英治  
中嶋 達彦  
野田 伸司  
早田 繁伸  
原澤 幹夫  
東 浩治  
平山 忠一  
福田 晴夫  
古田 雅子  
堀田 清治  
水野 幸也  
村田 智  
森 幹夫  
森田 芳光  
守永 正秀  
山下 秀憲  
吉川 修一郎

関係者

赤澤 富美子  
荒木 穂  
糸瀬 ゆり  
緒方 茂  
岡本 智伸  
片山 健治  
片山 裕  
木庭 基男  
小林 良助  
坂田 明光  
坂本 秀樹  
竹原 孝昭  
西田 敏男

府内 隆稔  
本郷 征武  
本田 土寿  
吉村 功

## あか牛ブロンズ像建立委員会名簿

1、顧問	農林水産省生産局畜産部畜産振興課課長	塩田 忠
	熊本県副知事	安田 宏正
	元九州農政局局長、東京あか牛応援団会長	菱沼 毅
	(社) 家畜改良事業団理事長	板井 康明
	(社) 日本草地畜産種子協会会長	浅野九郎治
2、委員	会長 熊本県畜産農業協同組合連合会経営管理委員会会長	府内 哲熊
	副会長 熊本県農業協同組合中央会会長	園田 俊宏
	副会長 熊本県畜産農業協同組合代表理事組合長	中川 利美
	副会長 南阿蘇畜産農業協同組合代表理事組合長	穴見 盛雄
	阿蘇市町村会会長	宮崎 暢俊
	阿蘇郡南阿蘇村村長	今村 輝昭
	(社) 日本あか牛登録協会会長	續 省三
	天草畜産農業協同組合代表理事組合長	三浦 哲
	球磨畜産農業協同組合代表理事組合長	白石昭四郎
	阿蘇農業協同組合代表理事組合長	丸山 信義
	畜産専門農協・農協連OB代表	城 光宣
	熊本県畜友会会長	合志 重信
	監事 (社) 熊本県畜産協会専務理事	村上 忠勝
	監事 受精卵 I G 会代表	後藤 孝一
	監事 南阿蘇村財政課長	川崎富二夫
3、幹事	幹事長 熊本県畜産農業協同組合連合会理事長	山崎 政治
	副幹事長 熊本県農政部畜産振興課課長補佐	松尾 佳典
	副幹事長 (社) 日本あか牛登録協会事務局長	児玉 一宏
	熊本県農業協同組合中央会総務企画部長	江 誠一郎
	熊本県農業研究センター畜産研究所所長	松本 道夫
	熊本県畜産農業協同組合参事	池辺 洋行
	南阿蘇畜産農業協同組合参事	梅田 政之
	球磨畜産農業協同組合参事	谷川 貞義
	玉名農業協同組合畜産課長	前川 吉宏
	阿蘇農業協同組合小国郷営農センター長	大塚 嘉久
	上益城農業協同組合指導販売部長	田原 要一
4、事務局	熊本県畜産農業協同組合連合会常務理事	後藤 幸男
	熊本県畜産農業協同組合連合会常務理事	徳丸 憲二
	(社) 熊本県畜産協会家畜改良部登録課長	古賀 豊
	熊本県畜産農業協同組合連合会専門技術員	緒方 秀臣

記念誌編集委員 山崎 政治 ・ 松本 道夫 ・ 児玉 一宏

## あ と が き

あか牛ブロンズ像建立の話が出てきてから、建立するまでの時間が短く、多くの方々から心配の声をお聞きする中「あか牛ブロンズ像建立委員会」を設置させていただいて、顧問をお願いした方々には、快く就任していただき大変ありがとうございました。

また、委員会の委員には、県内外の要職に就かれ、それぞれの立場でご活躍されている方々になっていただき、数多くの貴重なご意見を拝聴し、建立に至るまで、スムーズに事を進められましたことに対しましても重ねてお礼を申し上げます。

実際に、あか牛ブロンズ像建立に関わっていただく幹事には、それぞれ関係機関の技術者の第一線で活躍されている方々に就任していただきました。

限られた期間のうちに、最大限の協議を重ね、意見の一致を見ることに配慮しながら進めてまいりました。

また、あか牛ブロンズ像については、富山県高岡市にある竹中製作所に、その制作には、日展（委嘱）であられる田畑功氏をお願いし、ここでも短期間の内にすばらしい像を制作していただきました。

ここにあらためまして、心より感謝申し上げます。

あか牛ブロンズ像が出来てからが、真に「あか牛ルネサンス」の幕開けであり、新たなあか牛へのスタートラインと位置づけし、取り組みを進めていかなければならないと気を引き締めている毎日であります。

阿蘇の玄関口に建つあか牛ブロンズ像が、雄大な自然とともに、阿蘇を訪れる人々を温かく迎えてくれるでしょう。千年草原阿蘇の守護神として観光にも大いに貢献するものと考えます。

最後になりましたが、地元南阿蘇村今村輝昭村長さんをはじめとして、土地を提供していただいた本郷征武さん、環境を整備いただいた南陽建設さん、さらには像を建立するに当たり、生産者各位をはじめ、県内外の多くの方々からの心からの醸金を賜りましたことに衷心よりお礼申し上げます。

このあか牛像が、あか牛を愛する数多くの方々の心の架け橋となり、阿蘇の草原をはじめ全国各地でゆったりと草を食むあか牛の姿を永久に見ていたいと思います。

平成17年3月吉日

あか牛ブロンズ像建立委員会 記念誌編集委員長

---

あか牛ブロンズ像建立記念誌  
**あか牛を讃えて**

発行日  
2005年3月31日

編集・発行  
あか牛ブロンズ像建立委員会

---